HONDA

OWNER'S MANUAL

NC750X
NC750X Dual Clutch Transmission

Honda 車をお買いあげいただきありがとうございます。
安全で快適なバイクライフをお楽しみください。

この取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記を確認してください。

- お車の正しい取り扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

安全運転の基本として以下は重要ですので、お守りください。

- この取扱説明書を、よくお読みください
- 取扱説明書の推奨手順に従ってください
- 安全に関する表示を理解し、守ってください

安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、右記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠ **危険** **指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの**

⚠ **警告** **指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの**

⚠ **注意** **指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの**

その他の表示

アドバイス　お車のために守っていただきたいこと

車の仕様、その他の変更により、この本の表紙や内容と実車が一致しない場合があります。
車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。
この取扱説明書は、**NC750X** を中心に説明しています。イラストは **NC750X** をベースにしています。

目次

安全なライディング P. 2

操作ガイド P. 12

メンテナンス P. 104

こんなときは P. 136

インフォメーション P. 151

スペック P. 166

索引 P. 169

安全なライディング

この章では安全な運転のために必要な情報を記載しています。
安全のためによくお読みください。

安全上守っていただきたいこと ..... P. 3
安全運転のために ..... P. 3
運転するときの注意 ..... P. 5
アクセサリーと改造について ..... P. 10
積載について ..... P. 11

安全上守っていただきたいこと

安全のため、日常的に次の内容をお守りください。

- 道路運送車両法で定められた日常点検・定期点検を行ってください
- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください
- 排気ガスには一酸化炭素（CO）などの有害な成分が含まれているため、エンジンは、風通しの良い場所でかけてください

安全運転のために

- 走行中、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください
- 同乗者が両手でからだを固定し、両足を後席用ステップにのせているか確認してください
- 急激なハンドル操作や片手運転などはさけ、安全な運転を心がけてください
- 同乗者、他の車両、歩行者などに対する配慮を欠かさないでください
- ウインドスクリーン、フェアリングと車体の間に物を置かないでください。

次ページに続く

乗車時の服装

運転者と同乗者は必ずヘルメットを着用し、天候や走行状況に応じ、安全性が高く運転操作のしやすい、被視認性の高い二輪車用の服装を着用してください。

ヘルメット

安全基準を満たし、頭のサイズにあった視認性の高いもの

- 二輪車用で PSC、SG マークか JIS マークのあるものを推奨します
- 正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください
- 視界を妨げないフェイスシールドまたはゴーグルなどを使用し、眼を保護してください

⚠ 警告

ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者と同乗者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

グローブ

摩擦に強い皮製のもの

ブーツまたはライディングシューズ

滑りにくく、くるぶしまで覆われたもの

ジャケット・パンツ

プロテクターを備え、体の露出の少ない長袖・長ズボン

運転するときの注意

慣らし運転

適切な慣らし運転を行うと、お車の性能をより良い状態に保つことができます。

慣らしのポイント（走行距離 500 km まで）

- 急発進、急加速をさける
- 急ブレーキ、急なシフトダウンをさける
- 控えめな運転をする

ブレーキ

次の項目に注意してください。

- 制動力を効果的に得るために前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使う
- 不必要な急ブレーキ、急なシフトダウンをしない
  - ▶ タイヤをロックさせるなど、車体の安定性を損なうおそれがあります。
  - ▶ コーナリングの際は、コーナーの手前で減速してください。
- 雨天走行など滑りやすい路面に注意する
  - ▶ タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。
- 連続したブレーキ操作をしない
  - ▶ 長い坂や急な坂で繰り返しブレーキをかけると、ブレーキの温度が上昇して効きが悪くなるおそれがあります。エンジンブレーキと断続的なブレーキ操作を併用してください。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABS は、直進制動時のブレーキのかけすぎによる車輪ロックを制御する装置です。
ABS を正常に機能させるため、必ず前後とも指定のタイヤ、スプロケットをお使いください。

- 制動距離を短くするためのものではない
  - ▶ ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。
- 低速（約 10 km/h 以下）では普通のブレーキと同じ作動になる

次ページに続く

- ブレーキ操作時に、レバーやペダルに反動が生じることがある
  - ▶ ABS が作動しているときの現象で異状ではありません。反動の強さは状況によって異なります。

エンジンブレーキ

スロットルを戻すと、エンジンブレーキが効きます。さらにエンジンブレーキを必要とするときは 5 速、4 速・・・とシフトダウンを行ってください。急激なシフトダウンは、尻振りなどの原因や、エンジンやトランスミッションに悪影響を与えます。また、長い下り坂や急な下り坂などでは、断続的なブレーキ操作とエンジンブレーキを併用してください。

雨天または水たまりを走行したとき

路面が滑りやすくなったり、ブレーキの効き具合が変化します。慎重なブレーキ操作を心がけてください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキを乾かしてください。

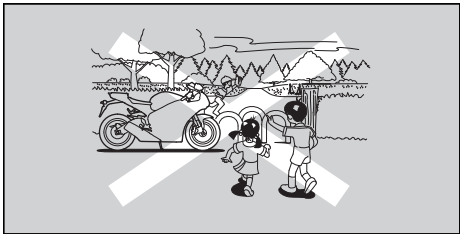
駐車するとき

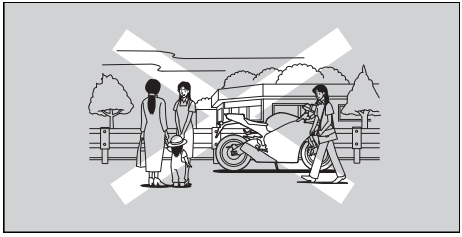
- 交通の邪魔にならない平坦で足場のしっかりした安全な場所に駐車する
- やむをえず傾斜地や足場の悪い場所に駐車するときは、車の転倒や動き出しがないよう安全処置に十分注意する
- 盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーを抜く

サイドスタンドでの駐車

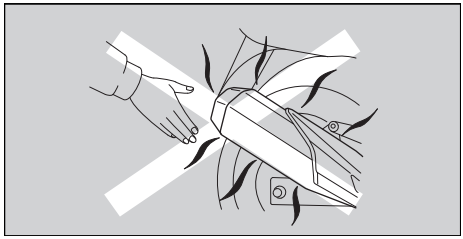
1. メインスイッチを○（Off）にする。
   サイドスタンドを下げ、車の重量がサイドスタンドにかかるまで、車をゆっくり左に傾ける。
   - ▶ ハンドルを右にきった状態での駐車は、車が不安定になり、転倒するおそれがあります。
2. ハンドルバーを左いっぱいにきる。
3. ハンドルロックをかけ、キーを抜く。 P. 69

● マフラーなどが熱くなっているので、他の方が触れることのない場所に駐車する





● エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラー、エンジンなどに触れない



⚠ 注意

マフラー、エンジン、ブレーキなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。触れるとヤケドを負う可能性があります。

- マフラー、エンジン、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで触れないこと
- 高温になる部分に可燃物が接触せず、他の方が触れることのないよう配慮すること

次ページに続く

燃料補給およびガソリンの取り扱い

エンジン、燃料装置、触媒装置の損傷を防ぐため、下記に注意してください。

- 無鉛レギュラーガソリンを使用する
- 高濃度アルコール含有燃料を補給しない
- 軽油や粗悪ガソリン（長期間保管したガソリン）、または不適切な燃料添加剤を使わない
- 燃料タンクの中に、泥、ほこり、水などを入れない

⚠ 警告

ガソリンは燃えやすくヤケドを負ったり爆発して重大な傷害に至る可能性があります。また身体に帯電した静電気の火花により引火する可能性があります。

ガソリンを取り扱うときは以下のことを守ってください。

- エンジンを止め、火元を遠ざける
- 給油は必ず屋外で行う
- こぼれたガソリンは、すぐに拭き取る
- 給油作業前に車体や給油機などの金属部分に触れて静電気を除去する

Honda セレクタブル トルク コントロール

このシステムは、アクセルオンの状態で後輪の空転を検知した際に、選択したトルクコントロールレベルに応じて後輪への駆動力を制限します。

- トルクコントロールレベルを低く設定した場合、アクセルオンの状態で後輪が空転する場合がある
  - ▶ 運転技術、運転状況に応じてトルクコントロールレベルを選んでください。
- トルクコントロールは減速時には作動せず、エンジンブレーキによる後輪のロックは防止しない
  - ▶ スロットルを急に閉じる操作はさけてください。特に、滑りやすい路面ではさけてください。
- トルクコントロールは、急なスロットル操作や誤ったスロットル操作、道路状態などを補完するものではない
  - ▶ 天候や路面状況に対して常に十分な注意をしてください。
- トルクコントロールを停止状態（OFF）にすることで、ぬかるみ、雪、砂地などからの脱出が容易になる場合やオフロード走行時にバランスやコントロールの維持が容易になる場合がある

トルクコントロールを正常に機能させるため、タイヤやエンジンおよび後輪側のスプロケットは指定のものをお使いください。

アクセサリーと改造について

アクセサリーを装着する際は、安全面から Honda 純正アクセサリーを推奨します。Honda 販売店にご相談ください。
Honda 販売店で取り付けられた Honda アクセサリーなどの取り扱いについては、その商品に付属の説明書をお読みください。
車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。不正改造は法律に触れることはもちろん、他の迷惑行為となります。
車の改造は保証の適用を除外されます。

⚠ 警告

不適切なアクセサリーや改造は、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

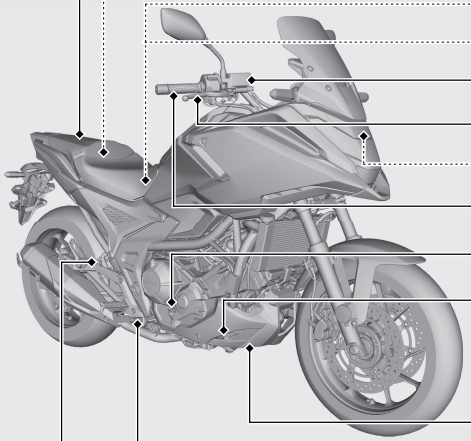
アクセサリーを装着する際は、Honda 販売店にご相談のうえ、取扱説明書に従ってください。

積載について

- 荷物を積むと積まないときにくらべて操縦安定性が変わるため、安全な速度で走行してください
- 荷物の積みすぎに注意し、確実に固定して安全な速度で走行してください
- ハンドル操作ができなくなる場合があるので、ハンドル付近に物を置かないでください
- ヘッドライト、ウィンカー、ストップ／テールランプ、マフラー周辺への積載はさけてください
  ▶ 過熱によりレンズが溶けたり、荷物が損傷する場合があります。
- カバー等が破損する場合があるので、指定の場所以外に荷物を積まないでください
  ▶ 走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。
- レンガや鉄片等、固くて重いものをラゲッジボックスに積んだまま走行しないでください。
  ▶ 積載重量以内でもラゲッジボックス底面が損傷する場合があります。
- 貴重品やこわれ易いものは積まないでください
- ラゲッジボックスに熱の影響を受け易い物は積まないでください。
- 荷物の積載は下記重量までです
  ラゲッジボックス：5 kg

各部の名称

NC750X



リアシート P.95

燃料タンクキャップ P.95

バッテリー P.117

メインヒューズ P.150

前輪ブレーキリザーバータンク P.125

前輪ブレーキレバー P.134

ETC アンテナ P.103

スロットルグリップ P.133

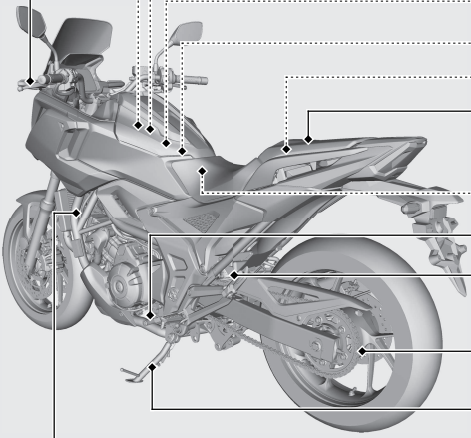
オイルレベルゲージ P.121

冷却水リザーバータンク P.123

ロアーフェアリング P.119

後輪ブレーキペダル

後輪ブレーキリザーバータンク P.125



クラッチレバー P.129

携帯工具/書類入れ P.98

ETC 車載器 P.103

ラゲッジボックス P.97

メンテナンスリッド P.118

燃料タンクキャップ P.95

リアシート P.95

ヒューズボックス P.149

シフトペダル P.86

リアサスペンションスプリングアジャスター P.135

ドライブチェーン P.128

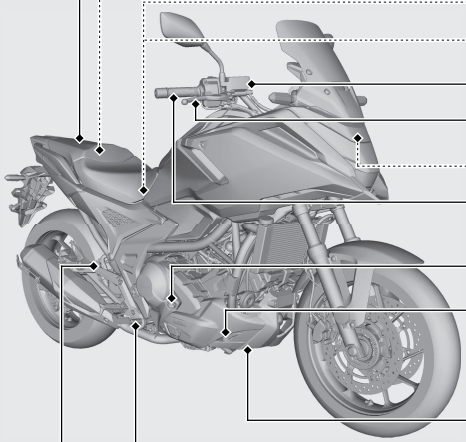
サイドスタンド P.6

ブリーザードレーン P.132

次ページに続く

各部の名称 前ページの続き

NC750X Dual Clutch Transmission



リアシート P.95

燃料タンクキャップ P.95

バッテリー P.117

メインヒューズ P.150

前輪ブレーキリザーバータンク P.125

前輪ブレーキレバー P.134

ETC アンテナ P.103

スロットルグリップ P.133

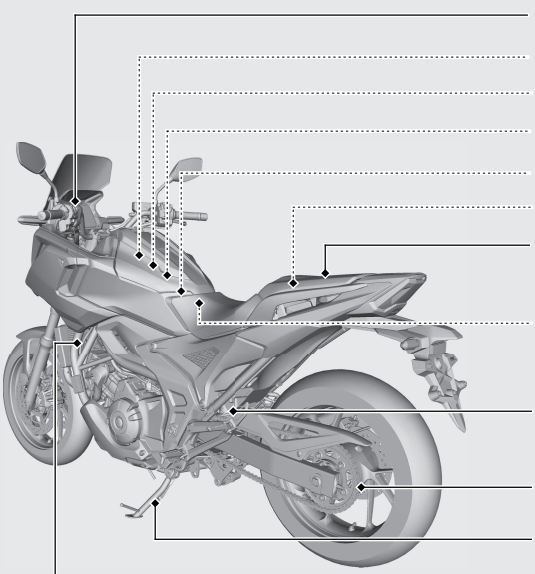
オイルレベルゲージ P.121

冷却水リザーバータンク P.123

ロアーフェアリング P.120

後輪ブレーキペダル

後輪ブレーキリザーバータンク P.125



パーキングブレーキレバー P.75

携帯工具/書類入れ P.98

ETC 車載器 P.103

ラゲッジボックス P.97

メンテナンスリッド P.118

燃料タンクキャップ P.95

リアシート P.95

ヒューズボックス P.149

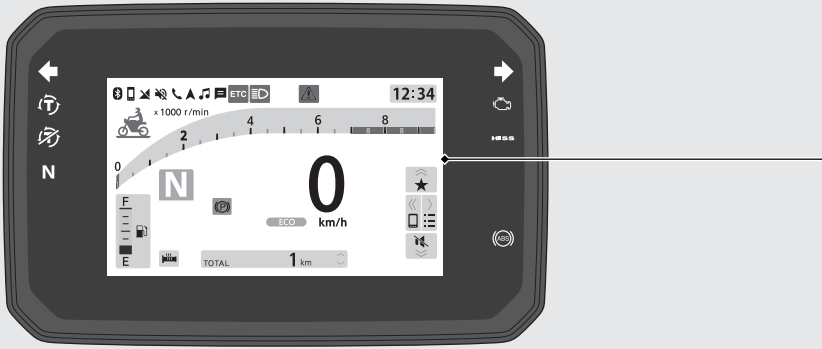
リアサスペンションスプリングアジャスター P.135

ドライブチェーン P.128

サイドスタンド P.6

ブリーザードレーン P.132

メーター

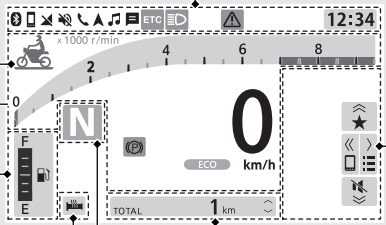


エンジンが停止した状態で長時間ディスプレイ機能を操作しないでください。バッテリーあがりの原因となります。

スピードメーター（速度計）／タコメーター（エンジン回転計）／ライディングモード／
パーキングブレーキインジケーター/ECO インジケーター P.20

ステータスバー P.19

選択エリア P.28



燃料計 P.22

情報表示エリア P.23 ／
ポップアップ情報表示 P.58

ギアポジション表示 P.21

グリップヒーター表示灯 P.22

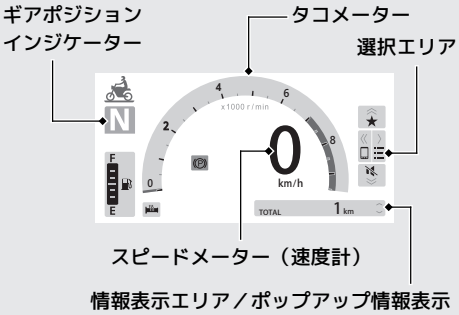
次ページに続く

メーター 前ページの続き

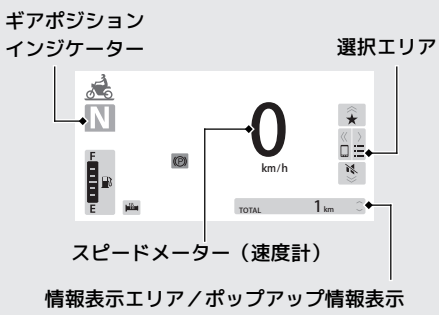
メーター画面は３つのパターンで構成されています。
スピードメーター（速度計）やタコメーター、情報表示の配置や表示内容はタイプによって異なります。
初期設定はバーです。
▶ ディスプレイタイプがシンプルのとき、タコメーターは表示されません。

ディスプレイタイプ：P.44

ディスプレイタイプ：サークル



ディスプレイタイプ：シンプル



ステータスバー



ステータスアイコン
Honda RoadSync のステータスアイコンを表示します。 P.70

ETC 表示灯 P.103

ハイビームパイロットランプ（前照灯上向き表示灯）

警告灯
警告情報があると点灯します。この警告灯はポップアップ情報にも表示されます。
P.58

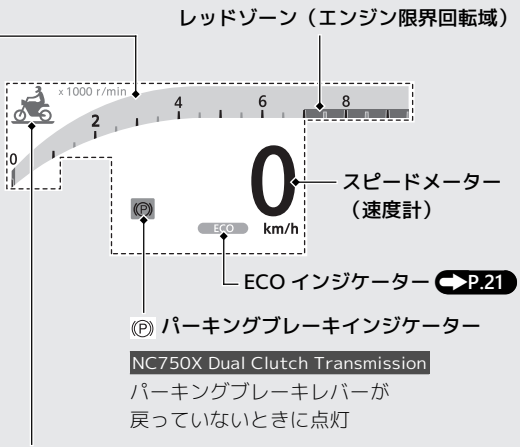
時計（12 時間／24 時間表示）
時計の設定： P.49

次ページに続く

メーター 前ページの続き

スピードメーター（速度計）／タコメーター（エンジン回転計）／ライディングモード／パーキングブレーキインジケーター／ECO インジケーターエリア

ディスプレイタイプ： バー



タコメーター

ディスプレイタイプが「シンプル」のとき、タコメーターは表示されません。

エンジン回転数が設定モードの「シフトポイント」で設定した値を超えるとタコメーターの色が変わります。

シフトポイント： P.41
ディスプレイタイプの設定： P.82

NOTICE

エンジン回転数がレッドゾーンに入らないように運転してください。エンジン寿命に悪影響を与えます。

ギアポジション表示

NC750X

ギアポジションを表示します。

▶ トランスミッションが適切なシフトになっていない場合“-”が表示されます。

NC750X Dual Clutch Transmission

ギアポジションを表示します。

ギアポジション表示は、下記の場合に点滅することがありますが異常ではありません。

▶ 前輪が地面から離れた場合

▶ メンテナンススタンドを立てるなどして、車輪を空転させた場合

この場合はメインスイッチを ○（Off）にし、再度メインスイッチを |（On）にします。

走行中にギアポジション表示の“ － ”表示が点滅したときは： P.143

ECO インジケーター

ECO インジケーターがオンのとき, 瞬間燃費に応じて ECO インジケーターが表示します。

燃費がよくなると、ECO インジケーターが表示します。

▶ 速度が約 20 km/h 未満の場合、ECO インジケーターは表示しません。

▶ ライディングモードが SPORTS、USER 1 または USER 2 に設定されている場合、ECO インジケーターがオンに設定されていても ECO インジケーターは表示しません。

ECO インジケーターの設定 P.35 P.43

次ページに続く

メーター 前ページの続き

燃料計



マークが1つ（E）だけ点滅したときの燃料残量：3.0 ℓ

アドバイス

燃料計が1つ（E）に近づいたら、早めに給油してください。燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

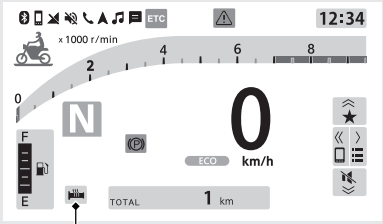
燃料計の故障表示： P.144

グリップヒーター表示灯

ハンドルグリップヒーター作動時に表示されます。

P.101

グリップヒーター表示灯に“E1”、“E2”、“E3”が点滅したときは P.146



マルチインフォメーションディスプレイ

情報表示エリア

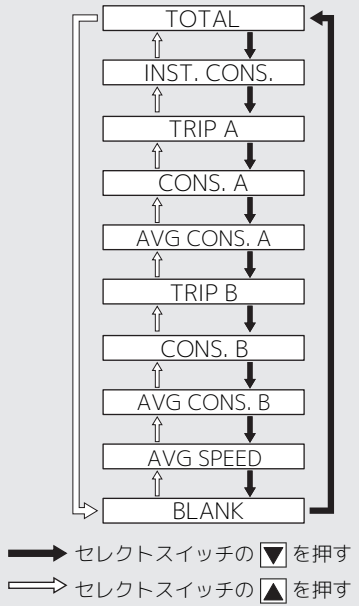
セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して情報を切り替えます。

► 設定モードの「お気に入りの情報」で表示する情報を選択できます。

お気に入りの情報： P.46

初期設定では以下が設定されています。

- オドメーター [TOTAL]
- 瞬間燃費 [INST. CONS.]
- トリップメーター A [TRIP A]
- トリップメーター B [TRIP B]



次ページに続く

メーター 前ページの続き

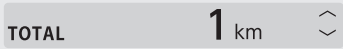
情報表示エリアに設定できる項目は以下のとおりです。

▶ 何も選択しない場合、情報表示エリアは表示されません。

- オドメーター [TOTAL]
- 瞬間燃費 [INST. CONS.]
- トリップメーター A [TRIP A]
- トリップメーター A 燃料消費量 [CONS. A]
- トリップメーター A 平均燃費 [AVG CONS. A]
- トリップメーター B [TRIP B]
- トリップメーター B 燃料消費量 [CONS.B]
- トリップメーター B 平均燃費 [AVG CONS. B]
- 平均車速 [AVG SPEED]
- ブランク（BLANK）

オドメーター [TOTAL]

総走行距離を表示



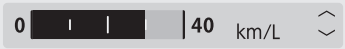
表示が “------” になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

瞬間燃費 [INST. CONS.]

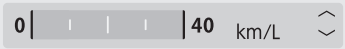
瞬間燃費を表示

表示範囲：0 ～ 40 km/L

- 速度が 5 km/h 未満の場合は 0 セグメントが表示されます。



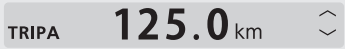
0 セグメント



上記の場合を除いて正しく表示されないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

トリップメーター [TRIP A/B]

トリップメーターを 0.0 km にリセットしてからの走行距離を表示





表示が "----.-" になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

トリップメーターをリセットするには：

P.33

次ページに続く

メーター 前ページの続き

燃料消費量 [CONS. A/B]

トリップメーターをリセットしてからのそれぞれのトリップメーターの燃料消費量を表示
表示範囲：0.0 ～ 299.9 L

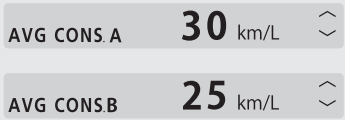


表示が "---.-" になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

燃料消費量をリセットするには： P.33

平均燃費 [AVG CONS. A/B]

トリップメーターをリセットしてからのそれぞれのトリップメーターの平均燃費を km/L の単位で表示



表示範囲：0.0 ～ 299.9 km/L

- 299.9 km/L を超えたときは "299.9" を表示します。
- トリップメーターをリセットしたときは "---.-" を表示します。

上記の場合をのぞいて表示が "---.-" になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

平均燃費をリセットするには： P.33

平均車速 [AVG SPEED]

エンジンを始動してからの平均速度を表示
表示範囲：0 ～ 299 km/h

- 初期表示は “---” を表示します。
- エンジン始動後の走行距離が 0.2 km 未満の場合は “---” を表示します。
- エンジン始動後の経過時間が 16 秒未満の場合は “---” を表示します。



上記の場合をのぞいて表示が “---” になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

空欄 [BLANK]

何も表示しない状態です。

次ページに続く

メーター 前ページの続き

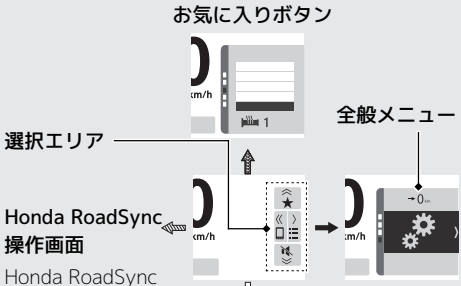
選択エリア

選択できる項目は以下のとおりです。

- ライディングモード P.29
- お気に入りボタン（グリップヒーターモードまたは TRIP RESET モード）
  P.32 P.33
- 全般メニュー P.30
- Honda RoadSync 操作画面 P.70
- Honda RoadSync ミュート

Honda RoadSync 操作画面と Honda RoadSync ミュートは、スマートフォンと接続したときのみ使用できます。

Bluetooth 機器を接続するには P.72



セレクトスイッチの ▲ を押し続ける
セレクトスイッチの ▶ を押す
セレクトスイッチの ◀ を押し続ける
セレクトスイッチの ▼ を押し続ける

ライディングモード

ライディングモードが[USER1]または[USER2]のときにMODEスイッチを押し続けると、ライディングモードのパラメーター設定を行うことができます。

ライディングモードの設定： P.80

お気に入りボタン

お気に入りボタンにはグリップヒーターモードまたは TRIP RESET モードを登録できます。

P.48

次ページに続く

メーター 前ページの続き

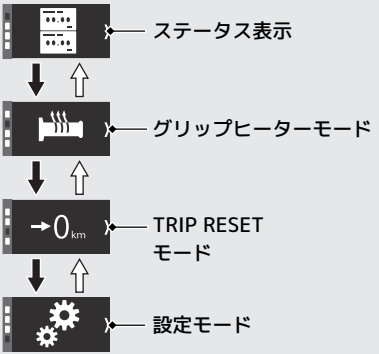
全般メニュー

以下を選択できます。

- ステータス表示
- グリップヒーターモード
- TRIP RESET モード
- 設定モード

セレクトスイッチの ▶ を押して全般メニューを開きます。

セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して、ステータス表示、FUEL モード、TRIP RESET モード、設定モードを選択し、▶ を押して決定します。



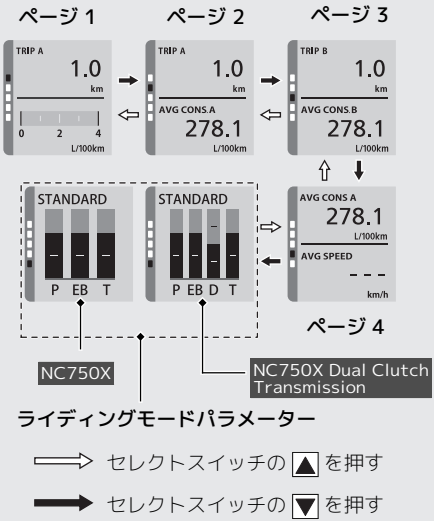
セレクトスイッチの ◀ を押して全般メニューを閉じます。

ステータス表示選択中を除き、10 秒間スイッチを操作しない場合も全般メニューが閉じます。

ステータス表示

設定モードの「お気に入りの情報」で選択した情報を表示します。
セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して 4 つのページとライディングモードのパラメーター表示を切り替えます。
▶ 1 ページに 2 つの情報が表示されます。

表示できる項目は、情報表示エリアと同じです。
お気に入りの情報： P.46



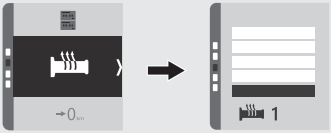
次ページに続く

メーター 前ページの続き

グリップヒーターモード

ハンドルグリップヒーターのヒーターレベルを表示します。

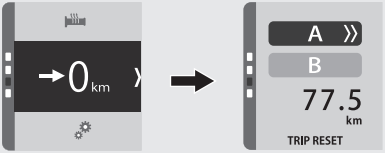
1. グリップヒーターモードを選択します。
P.30
2. セレクトスイッチの ▶ を押します。



ヒーターレベルを変更するには P.101

TRIP RESET モード

① TRIP RESET モードを選択し、セレクトスイッチの ▶ を押します。 P.30

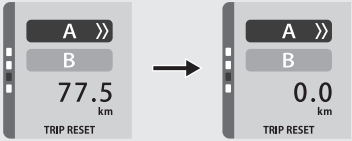


② セレクトスイッチの ▲ または ▼ を使って、リセットするトリップメーターを選択します。



③ セレクトスイッチの ▶ を押し続け、選択したトリップメーターをリセットします。

▶ トリップメーター A／B をリセットすると、同時にそれぞれのトリップメーターに基づいた燃料消費量[CONS. A/B]、平均燃費[AVG CONS. A/B]がリセットされます。



トリップ A 自動リセットモードを ON にすると、給油後、燃料計のセグメントが 2 つ以上増えたときに、トリップメーター A、トリップメーター A 燃料消費量、トリップメーター A 平均燃費を自動的にリセットすることができます。

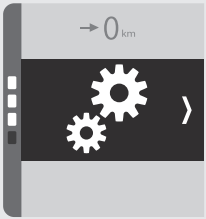
トリップ A 自動リセット： P.42

メーター 前ページの続き

設定モード

セレクトスイッチの ▶ を押すと、設定モードに移行します。

▶ 設定モードに移行するには、車両を停止させてください。



設定モード： P.35

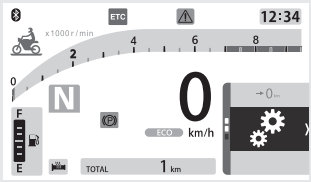
各種項目の設定

設定モードへの移行

選択エリアで設定モードが表示された状態でセレクトスイッチの ▶ を押します。 P.30

▶ 設定モードに切り換えると時計、警告灯、速度が画面の上部に表示されます。

通常表示



設定モード



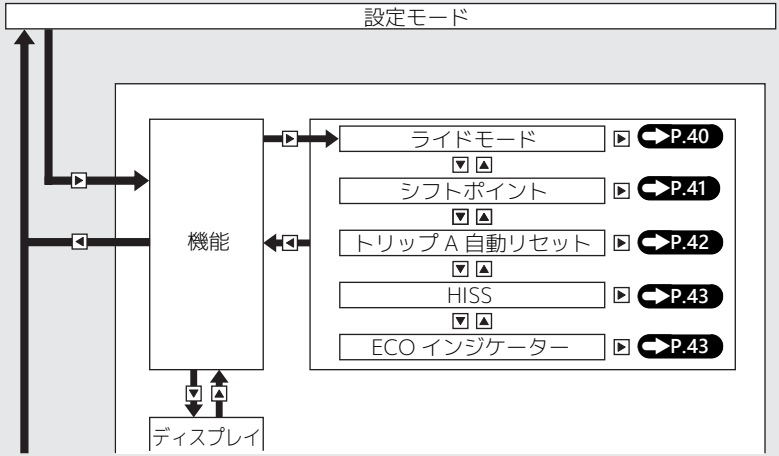
設定を完了するには

- 「機能」、「ディスプレイ」、「全般」、「サービス」を選択中にセレクトスイッチの ◀ を押します。
- メインスイッチを ○（Off）にし、再び |（On）にします。

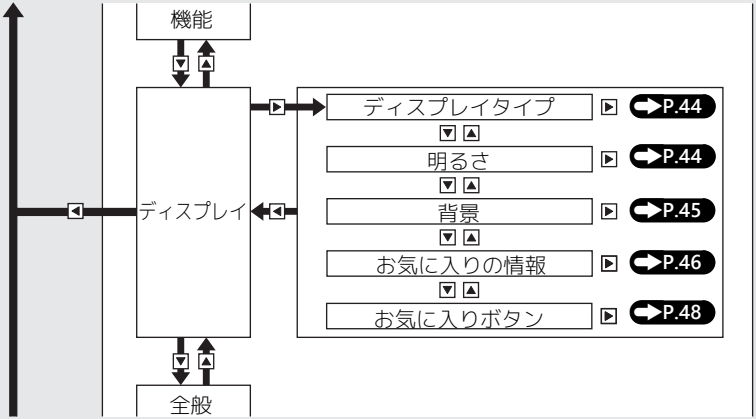
次ページに続く

メーター 前ページの続き

設定の流れ

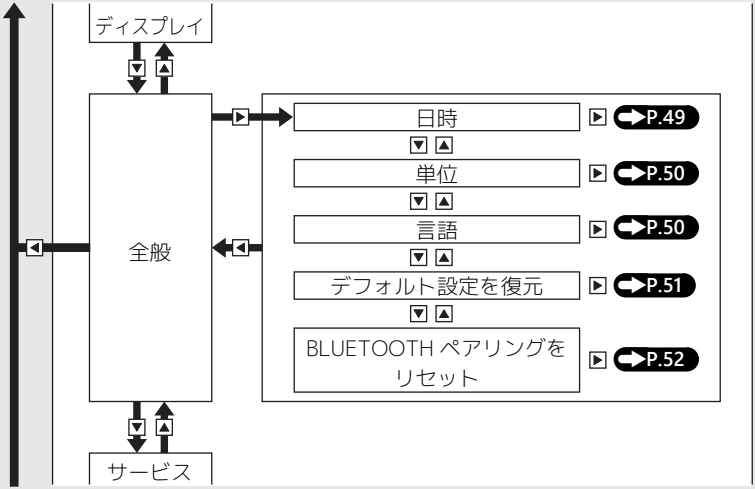


スイッチを押す

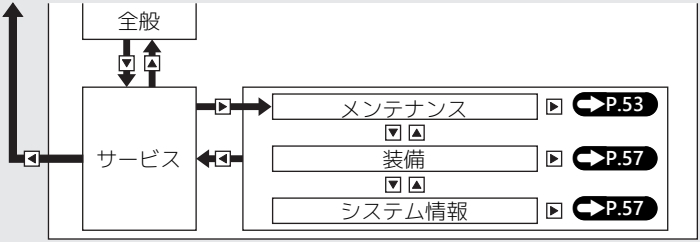


スイッチを押す

次ページに続く


ディスプレイ
全般
サービス
日時
P.49
単位
P.50
言語
P.50
デフォルト設定を復元
P.51
BLUETOOTH ペアリングを
リセット
P.52

スイッチを押す



スイッチを押す

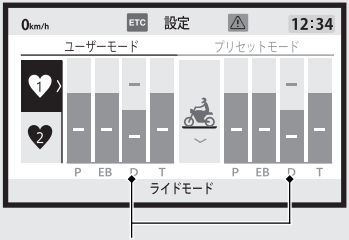
次ページに続く

機能

ライドモード P.76

ライディングモードの[USER1]と[USER2]の設定値を変更できます。

❶ セレクトスイッチの ▲ または ▼ を使ってライディングモードの[USER 1]または[USER 2]を選択します。



NC750X Dual Clutch Transmission

❷ セレクトスイッチの ◀ または ▶ を押してパラメーターを選択します。

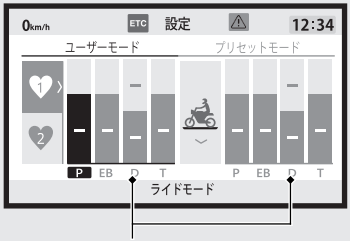
NC750X

P, EB, T

NC750X Dual Clutch Transmission

P, EB, D, T

▶ プリセットモードではほかのライディングモードの設定値を確認することができます。
セレクトスイッチの ▲ または ▼ を使って、表示するライディングモードを切り替えます。



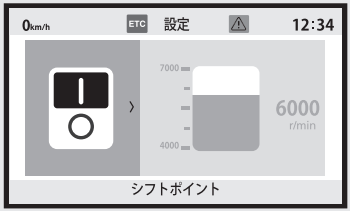
NC750X Dual Clutch Transmission

❸ セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して、設定値を変更します。
❹ セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。
❺ 通常表示画面に戻ることで設定モードを完了します。P.35
設定モードを続ける場合は、セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ります。

シフトポイント

シフトアップモードの ▌（オン）と ○（オフ）、また設定値を切り替えることができます。P.20

① セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して ▌（オン）と ○（オフ）を切り替えます。



シフトポイント

次ページに続く

メーター 前ページの続き

②▎（オン）を選んだ場合、セレクトスイッチの ▶ を押して、シフトポイントの設定に移行することができます。

③セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して、値を設定します。

▶ 設定範囲：4,000 ～ 70,000 r/min



シフトポイント

④セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。

⑤通常表示画面に戻ることで設定モードを完了します。P.35

設定モードを続ける場合は、セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ります。

▎トリップ A 自動リセット

トリップ A 自動リセットモードの▎（オン）と ○ （オフ）を切り替えることができます。P.33

❶セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して▎（オン）と ○（オフ）を切り替えます。

❷セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。

❸通常表示画面に戻ることで設定モードを完了します。P.35

設定モードを続ける場合は、セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ります。



トリップA自動リセット

HISS

HISS 表示灯の点滅の▌（オン）と○（オフ）を切り替えることができます。

①セレクトスイッチの▲または▼を押して▌（オン）と○（オフ）を切り替えます。
②セレクトスイッチの◀を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。
③通常表示画面に戻ることで設定モードを完了します。➔P.35
設定モードを続ける場合は、セレクトスイッチの◀を押して前のメニューに戻ります。



ECO インジケーター

ECO インジケーターのオン／オフを切り換えることができます。

❶セレクトスイッチの▲または▼で▌（On）または○（Off）を選択します。
❷セレクトスイッチの◀を押して設定を完了します。
❸通常表示画面に戻ることで設定モードを完了します。➔P.35
設定モードを続ける場合は、セレクトスイッチの◀を押して前のメニューに戻ります。



次ページに続く

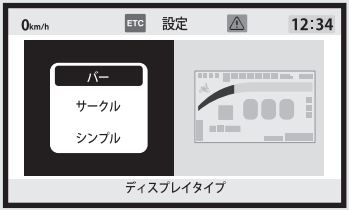
メーター 前ページの続き

ディスプレイ

ディスプレイタイプ

ディスプレイタイプの変更ができます。
P.18

①セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押してディスプレイタイプ（「バー」／「サークル」／「シンプル」）を選択します。
②セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。
③通常表示画面に戻ることで設定モードを完了します。P.35
設定モードを続ける場合は、セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ります。



明るさ

ディスプレイの明るさを自動調節または 8 段階に調節できます。
ディスプレイの自動調光： P.156

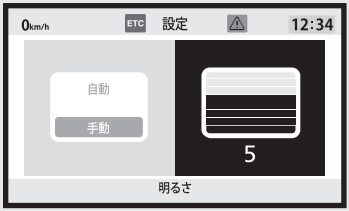
ディスプレイが高温になると画面が暗くなることがあります。温度が下がっても画面の明るさが戻らない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

❶セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して「自動」と「手動」を切り替えます。



❷「手動」を選んだ場合、セレクトスイッチの ▶ を押して、明るさの設定に移行することができます。

❸セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して、明るさを設定します。



❹セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。

❺通常表示画面に戻ることで設定モードを完了します。➡P.35
設定モードを続ける場合は、セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ります。

背景

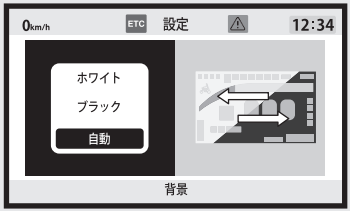
ディスプレイの背景色を「ホワイト」、「ブラック」、「自動」から選択できます。

ディスプレイの自動調光： ➡P.156

①セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して背景色を選択します。

②セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。

③通常表示画面に戻ることで設定モードを完了します。➡P.35
設定モードを続ける場合は、セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ります。



次ページに続く

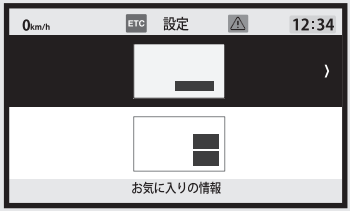
メーター 前ページの続き

お気に入りの情報

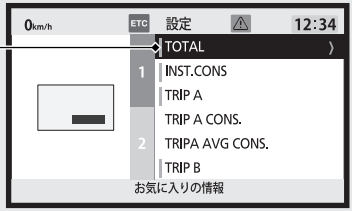
情報表示エリアと、選択エリアのステータス表示に表示する項目を変更することができます。
P.23 P.31

情報表示エリア

1. セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して、情報表示エリアを選択し、セレクトスイッチの ▶ を押します。



2. セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して、項目を選択します。
3. セレクトスイッチの ▶ を押すと、選択中の項目を表示するかどうかを切り替えます。
   ▶ カーソルが緑色になっている項目が情報表示エリアに表示されます。

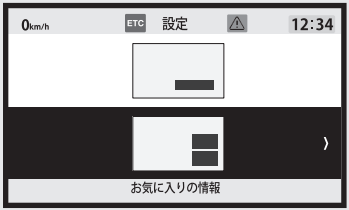


カーソル

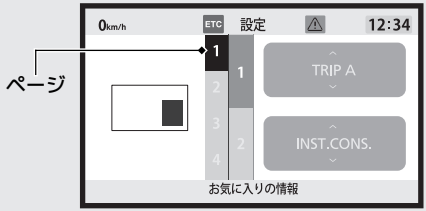
4. セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。
5. 通常表示画面に戻ることで設定モードを完了します。P.35
   設定モードを続ける場合は、セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ります。

ステータス表示

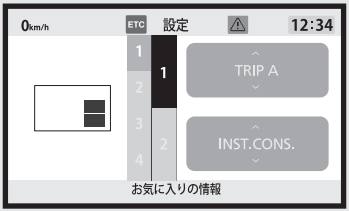
①セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して、選択エリアを選択し、セレクトスイッチの ▶ を押します。



②セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して、ステータス表示のページを選択し、セレクトスイッチの ▶ を押します。



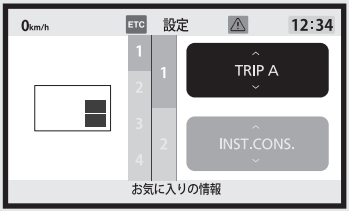
③セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して、「1」（上段）または「2」（下段）を選択し、セレクトスイッチの ▶ を押します。



次ページに続く

メーター 前ページの続き

④セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して項目を選択します。



⑤セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。

⑥通常表示画面に戻ることで設定モードを完了します。P.35

設定モードを続ける場合は、セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ります。

お気に入りボタン

お気に入りボタンに設定する項目を変更することができます。P.28

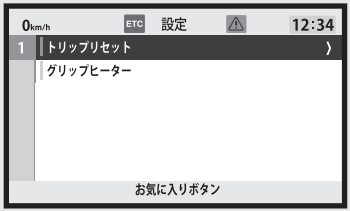
❶セレクトスイッチの ▲ または ▼ で項目を選択します。

❷セレクトスイッチの ▶ を押して項目を設定します。

❸セレクトスイッチの ◀ を押して設定を完了します。

❹通常表示画面に戻ることで設定モードを完了します。P.35

設定モードを続ける場合は、セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ります。



全般

日時

①セレクトスイッチの ◀ または ▶ を押して日、月、年、時、分、「24／12」と「AM／PM」を選択します。
②セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して、設定を変更します。
▶ 24 時間表示を選択した場合、「AM／PM」は選択できません。
③セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。
④通常表示画面に戻ることで設定モードを完了します。P.35
設定モードを続ける場合は、セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ります。



次ページに続く

単位

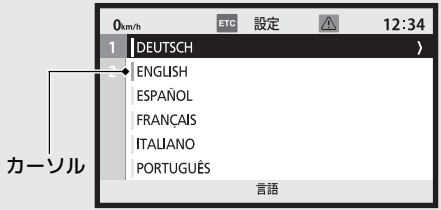
「単位」は表示されますが選択できません。



言語

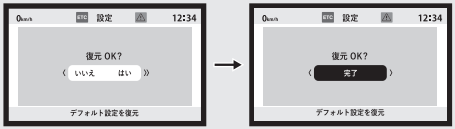
言語の切り替えができます。

1. セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して、言語を選択します。
2. セレクトスイッチの ▶ を押すと、選択中の言語に切り替えます。
   ▶ カーソルが緑色になっている言語が適用されています。
3. セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。
4. 通常表示画面に戻ることで設定モードを完了します。P.35
   設定モードを続ける場合は、セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ります。



デフォルト設定を復元

セレクトスイッチの ▶ を押し続けると、メーターの設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。



工場出荷時に戻る設定値

- ライドモード
- シフトポイント
- トリップ A 自動リセット
- HISS
- ディスプレイタイプ
- 明るさ
- 背景
- お気に入りの情報
- お気に入りボタン
- 単位
- 言語
- ECO インジケーター

次ページに続く

BLUETOOTH ペアリングをリセット

Bluetooth®のペアリング情報をリセットできます。
ペアリング情報をリセットするときは、安全な場所に停車してください。

Bluetooth 機器を接続するには： P.72

ステータスアイコンを見て、リセットを行いたいスマートフォンが車両に接続されていることを確認してください。

ステータスアイコン： P.19

① セレクトスイッチの ◀ または ▶ を押して「いいえ」（リセットしない）または「はい」（リセットする）を選択します。

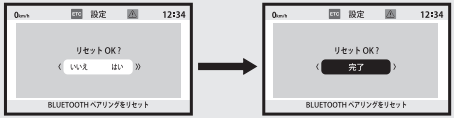
② 「いいえ」を 選択する場合

セレクトスイッチの ◀ を押すと、ペアリング情報は保持されたまま前のメニューに戻ります。

「はい」を 選択する場合

セレクトスイッチの ▶ を押し続けると、スマートフォンとの接続を切断し、ペアリング情報をリセットします。

▶ リセットが完了すると、「完了」が表示されます。



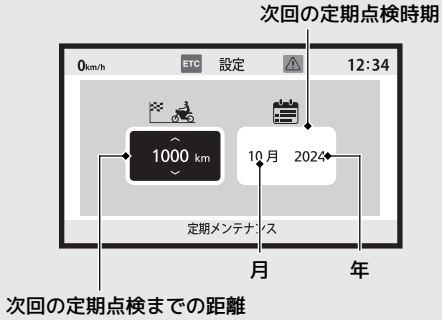
▶ 車両からペアリング情報を削除してもスマートフォンにペアリング情報が残っていると、スマートフォンが車両に再接続される場合があります。

サービス

メンテナンス

定期メンテナンス

次回点検時期の確認と変更ができます。



表示範囲：

距離：

-----、-99,999 ～ 12,000 km

日付：

月：---、1 月 ～ 12 月

年：----、2020 ～ 2099

設定範囲：

距離：

-----、100 ～ 12,000 km

日付：

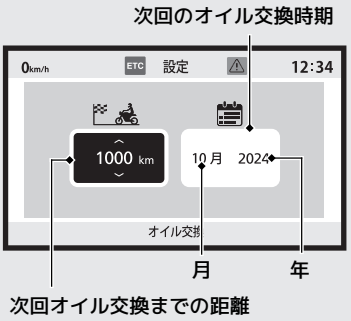
月：---、1 月 ～ 12 月

年：----、2020 ～ 2099

次ページに続く

オイル交換

次回オイル交換時期の確認と変更ができます。



表示範囲：

距離：

-----、-99,999 ～ 10,000 km

日付：

月：---、1 月 ～ 12 月

年：----、2020 ～ 2099

設定範囲：

距離：

-----、100 ～ 10,000 km

日付：

月：---、1 月 ～ 12 月

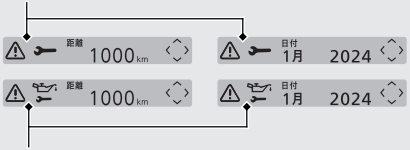
年：----、2020 ～ 2099

以下の時期に達したとき、メンテナンスポップアップ情報表示が通常画面に表示されます。

P.58

- 次回の定期点検時期の 500 km 前に達したとき
- 次回のエンジンオイル交換時期の 100 km 前に達したとき
- 各点検時期の1 か月前に達したとき

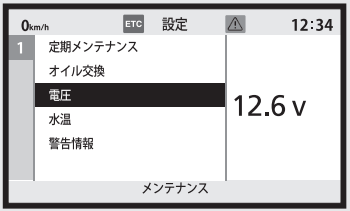
定期点検ポップアップ情報表示



オイル交換ポップアップ情報表示

電圧

バッテリーの電圧を表示します。



次ページに続く

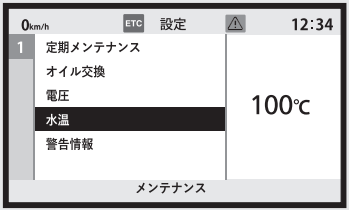
水温

冷却水の水温を表示します。

- 水温が 34℃以下のとき "---" を表示します。
- 水温が 122 ℃ ～ 131 ℃のとき、水温表示が点滅します。
- 水温が 132 ℃以上のとき、"132" が点滅します。

水温が 122 ℃を超えると、警告灯と水温警告灯が点灯し、ポップアップ情報表示が表示されます。 P.56 P.59

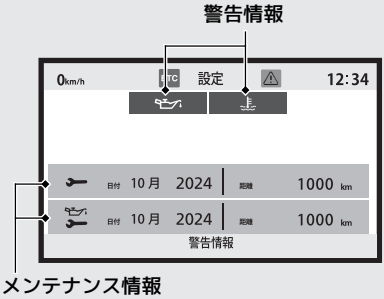
オーバーヒート（水温警告と警告灯が点灯）： P.138



警告情報

警告情報やメンテナンス情報を表示します。

▶ 車両に警告情報がある場合は、速やかに Honda 販売店で点検を受けてください。



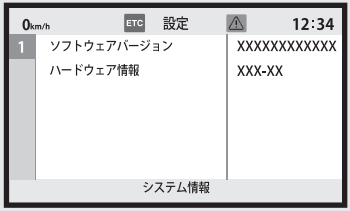
装備

「装備」は表示されますが選択できません。



システム情報

ソフトウェアバージョンとハードウェア情報が表示されます。



次ページに続く

メーター 前ページの続き

ポップアップ情報表示

以下の場合は、ポップアップ情報を表示します。

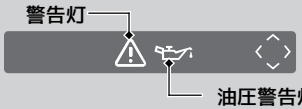
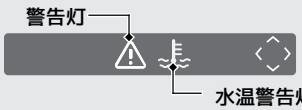
- メンテナンス情報：車両の点検時期が近づいているとき。
- 警告情報：システムが異状を検知したとき。
- ライディングモード：ライディングモードが変更されたとき。

複数のポップアップ情報表示がある場合、ポップアップ情報表示が交互に表示されます。
ポップアップ情報が表示されているときに、 セレクトスイッチを押すと、ポップアップ情報を非表示にできます。

メンテナンス情報

表示	説明	対処
	定期点検時期が近づいたときに表示	Honda 販売店で点検を受けてください。
	エンジンオイル交換時期が近づいたときに表示	オイル交換を行ってください。

警告情報

表示	説明	対処
	エンジンオイルの油圧が低下したときに表示	走行中またはアイドリング中に点灯したときは： P.139
	冷却水が高温になったときに表示	走行中またはアイドリング中に点灯したときは： P.138

ライディングモード

表示	説明	対処
STANDARD	ライディングモードを変更したとき、現在のライディングモードを表示	ライディングモード： P.76

警告灯／表示灯

警告灯／表示灯が点灯すべきときに点灯しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。
ディスプレイに表示されるインジケーターについては、「メーター」を参照してください。 P.16



⇦**方向指示器表示灯**

PGM-FI 警告灯
メインスイッチを｜（On）にすると点灯し、数秒後に消灯
走行中またはアイドリング中に点灯または点滅したときは P.140

ABS 警告灯
メインスイッチを｜（On）にすると点灯し、速度が約 10 km/h に達すると消灯
走行中に点灯したときは P.141

Nニュートラル表示灯
トランスミッションがニュートラルの位置にあるときに点灯

トルクコントロール警告灯

- メインスイッチを|（On）にすると点灯し、速度が約 5 km/h に達すると消灯
  同時に、トルクコントロールが作動可能な状態になる
- トルクコントロール作動中に点滅

走行中に点灯したときは P.142



方向指示器表示灯

HISS 表示灯 P.155

- メインスイッチを|（On）にすると
  一時的に点灯し、すぐに消灯
- メインスイッチを○（Off）にすると
  2 秒間隔で 24 時間点滅

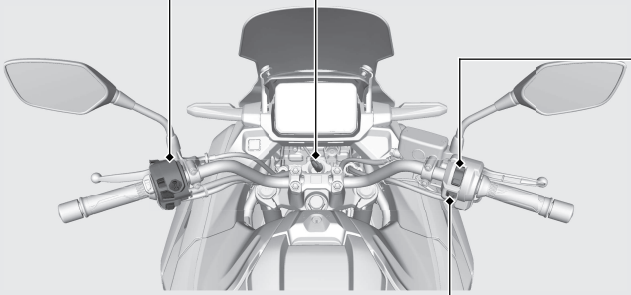
トルクコントロール OFF 警告灯

トルクコントロールを停止状態（OFF）にすると点灯

スイッチ

NC750X

左ハンドルスイッチ P.66



⚠ハザード（非常駐車灯）スイッチ

● メインスイッチが |（On）の時に使用できる

メインスイッチ

電気回路の ON ／OFF、ハンドルロックに使用

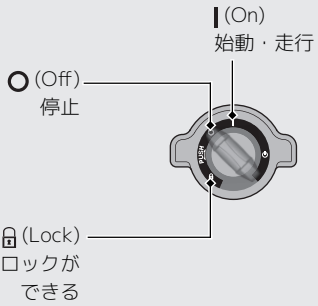
P.69

▶ ○（Off）または🔒（Lock）の位置で、キーを抜くことができます。

エンジンストップスイッチ/スタータースイッチ

通常は、（RUN）位置にしておく

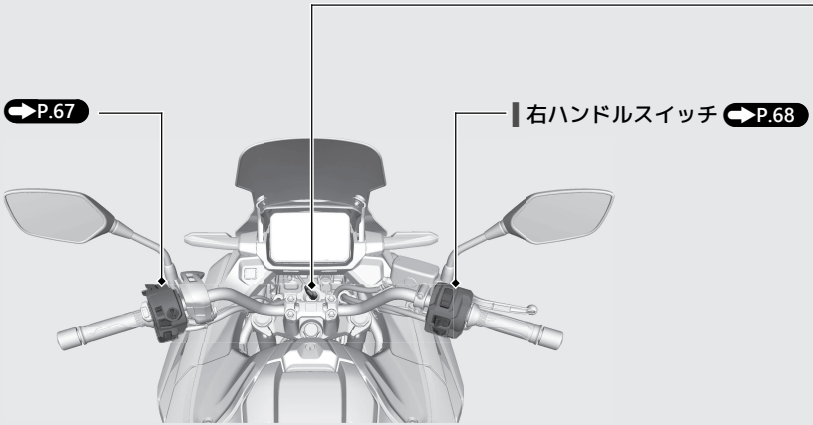
▶ 非常時に⊗（Stop）位置にすると、エンジンを停止できます。



次ページに続く

スイッチ 前ページの続き

NC750X Dual Clutch Transmission

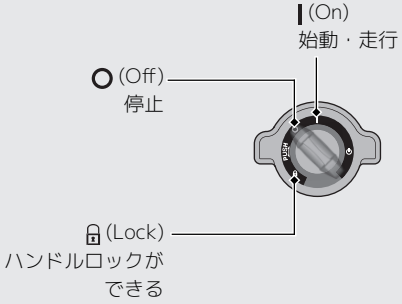


⏻ メインスイッチ

電気回路の ON ／OFF、ハンドルロックに使用

P.69

▶ ○（Off）または 🔒（Lock）の位置で、キーを抜くことができます。

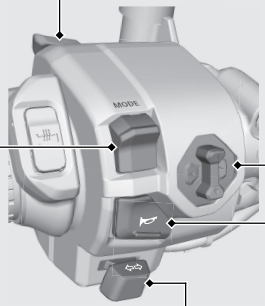


次ページに続く

スイッチ 前ページの続き

左ハンドルスイッチ

NC750X



ヘッドライト（前照灯）上下切り換えスイッチ／パッシングライトスイッチ（追い越し合図）

- ≣D（HI）：ヘッドライトが上向き
- ≣D（LO）：ヘッドライトが下向き
- ≣D**PASS**：ヘッドライトが下向きのときのみ作動

セレクトスイッチ
メーターの設定と Honda RoadSync（➡P.70）の操作に使用します。

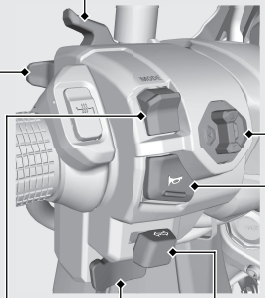
ホーンスイッチ

ウィンカー（方向指示器）スイッチ
▶ 解除はスイッチを押して行います。

MODE **スイッチ**
ライディングモードの選択に使用します。➡P.76

NC750X Dual Clutch Transmission

シフトアップスイッチ（+） P.92



ヘッドライト（前照灯）上下切り換えスイッチ／パッシングライトスイッチ（追い越し合図）

- ≣D（HI）：ヘッドライトが上向き
- ≣D（LO）：ヘッドライトが下向き
- ≣D**PASS**：ヘッドライトが下向きのときのみ作動

セレクトスイッチ
メーターの設定と Honda RoadSync（P.70）の操作に使用します。

ホーンスイッチ

ウィンカー（方向指示器）スイッチ
▶ 解除はスイッチを押して行います。

シフトダウンスイッチ（−） P.92

MODE スイッチ
ライディングモードの選択に使用します。 P.76

次ページに続く

スイッチ 前ページの続き

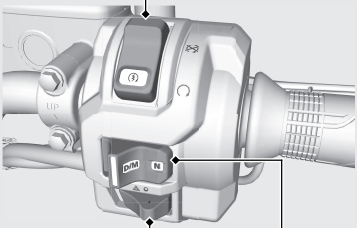
右ハンドルスイッチ

NC750X Dual Clutch Transmission

エンジンストップスイッチ/スタータースイッチ

通常は、（RUN）位置にしておく

▶ 非常時に（Stop）位置にすると、エンジンを停止できます。



N-D/M スイッチ

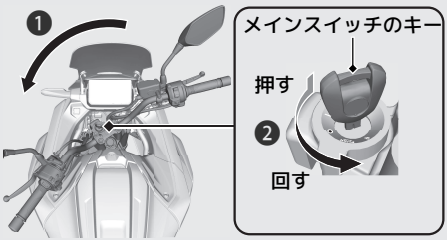
ニュートラルと AT（オートマチック）モード、
MT（マニュアル）モードの切り換え P.91

ハザード（非常駐車灯）スイッチ

● メインスイッチが（On）の時に使用できる

ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。
U 字ロックなどの使用も推奨します。



かけかた

❶ ハンドルを左にいっぱいにきる。
❷ キーを押し込みながら、🔒（Lock）の位置まで回す。
► ロックがかかりにくい場合は、ハンドルを左右に軽く動かしてください。
❸ キーを抜く

外しかた

キーを押し込みながら、○（Off）の位置まで回す。

Honda RoadSync

スマートフォンを車両と *Bluetooth*® を介して *Bluetooth*® ヘッドセットに接続すると、ヘッドセットからの音声入力でスマートフォンを操作できます。 ハンドルのスイッチを操作してシステムを使用することもできます。

▶ このシステムを使用するには、事前にスマートフォンに専用アプリケーションをインストールし、スマートフォンを車両およびヘッドセットとペアリングする必要があります。

専用アプリケーションの利用規約およびインストール/操作方法については、次の URL を参照してください。

https://global.honda/voice-control-system/

通信範囲：
車両から半径 1 メートル以内

サポートされている *Bluetooth*®バージョン/プロファイル

Bluetooth® バージョン	Bluetooth 4.2 以上
Bluetooth® プロファイル	GATT (Generic Attribute Profile)
	HOGP (HID over GATT Profile)

Bluetooth® ワイヤレステクノロジー
Bluetooth® ワードマークとロゴは、Bluetooth SIG,Inc. の所有であり、本田技研工業株式会社のマーク使用は許可を得ています。その他のトレードマークおよびトレードネームは各所有者のものです。

- この機能の使用に必要なネットワーク通信および通信機器の費用は、ユーザー自身が負担するものとします。
- 一度に 2 台以上のスマートフォンをペアリングすることはできません。
- 一部のスマートフォンはこの機能と互換性がない場合があります。
- Honda は、スマートフォンの使用による損害やトラブルについては、一切責任を負いません。
- スマートフォンを車両に接続できない場合は、スマートフォンの保管場所を変更してください。

システム自体には特定の制限があります。
道路、標識、信号などには特に注意して、システムが提供するメーターの音声ガイダンスと情報を確認する必要があります。標識、信号などがない場合でも細心の注意を払って走行してください。 常にあなた自身の最善の判断で使用し、乗車中は交通法規に従ってください。

⚠ 警告

走行中に Honda RoadSync を使用すると、道路から注意をそらし、重傷を負ったり死亡したりする可能性のある事故を引き起こす可能性があります。

- 交通量の多い交差点を横断するときなどは特に注意してください。
- 道路、標識、信号には、特に注意してください。
- 乗車中は交通法規に従ってください。

次ページに続く

Honda RoadSync 前ページの続き

Honda RoadSync の制限

Honda RoadSync 機能の提供に不可欠なオペレーティングシステム、ハードウェア、ソフトウェア、およびその他のテクノロジーの変更、ならびに新規または改訂された政府規制により、Honda RoadSync の機能およびサービスが減少または停止する場合があります。

Honda は Honda RoadSync 機能の提供に不可欠なオペレーティングシステム、ハードウェア、ソフトウェア、およびその他のテクノロジーの仕様や機能に対していかなる保証もできません。

Honda は Honda RoadSync をご利用いただいたことにより生じた損害について一切の責任を負いません。

Bluetooth®を介したスマートフォンのペアリング

安全な場所に停車して *Bluetooth*® ペアリングを行ってください。

一度に接続できるスマートフォンは１台までです。
すでに他のスマートフォンが接続されている場合、*Bluetooth*® のペアリング情報をリセットしてください。 ➡P.52

❶ 設定モードの「BLUETOOTH ペアリングをリセット」を選択します。 P.35 P.52

❷ セレクトスイッチの ▶ を押し続けて「はい」を選択します。 P.52

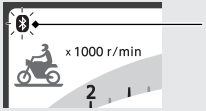
► セレクトスイッチの ◀ を押して「いいえ」を選択すると、ペアリングを行わず前のメニューに戻ります。



❸ システムがペアリング待機状態になり、「ペアリング中...」が表示されます。
2分以内にスマートフォン側のアプリケーションでペアリング操作を行ってください。



► このとき、通常画面では *Bluetooth*® インジケーターが点滅します。



***Bluetooth*® インジケーター**

► アプリケーションの操作については、アプリケーションの指示に従ってください。

次ページに続く

Honda RoadSync 前ページの続き

❹ ペアリングが完了すると、「完了」が表示されます。

▶ ペアリングが完了しないまま 2 分経過した場合も「完了」が表示されます。
ステータスアイコンを見て、ペアリングが完了していることを確認してください。 ➡P.19
ペアリングが完了していない場合、❶ に戻って手順を繰り返してください。



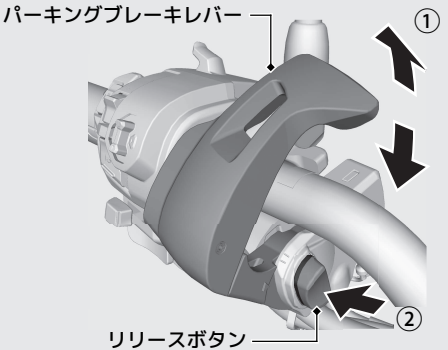
パーキングブレーキ

NC750X Dual Clutch Transmission

パーキングブレーキレバー / リリースボタン

駐車時と暖機中はパーキングブレーキがかかっていることを確認する

▶ 走行前にパーキングブレーキが完全に解除されていることを確認してください。



かけかた

パーキングブレーキレバー（①）を手前に引くと、後輪がロックする

▶ パーキングブレーキレバーが引かれ、リリースボタン（②）が飛び出ていることを確認してください。

▶ パーキングブレーキの調整を適切にしないと、ロックされないことがあります。P.127

解除のしかた

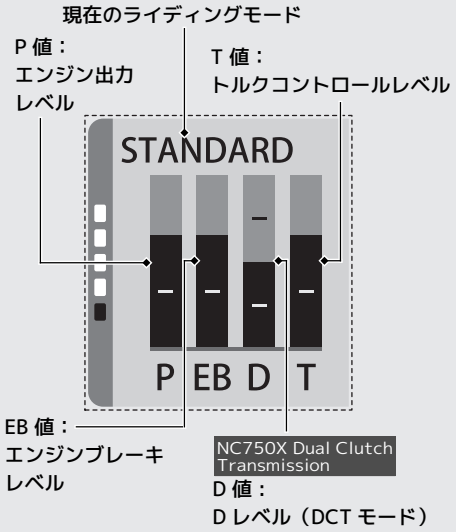
パーキングブレーキレバー（①）を軽く手前に引きながらリリースボタン（②）を押しパーキングブレーキレバーを戻すと、後輪のロックが外れる

▶ 走行前にパーキングブレーキが完全に解除され、パーキングブレーキ警告灯が消灯していることを確認してください。

ライディングモード

ライディングモードの切り換えができます。
ライディングモードは以下の内容で構成されています。

P：エンジン出力レベル
EB：エンジンブレーキレベル
NC750X Dual Clutch Transmission
D：D レベル（DCT モード）
T：トルクコントロールレベル



ライディングモードは STANDARD、SPORT、RAIN、USER1、USER2 の 5 つのモードが選択できます。

STANDARD、SPORT および RAIN

▶ STANDARD：オールラウンドにさまざまなシチュエーションで楽しめる標準的なモードです。
▶ SPORT：エンジンレスポンスが良く、スポーツライディングに適したモードです。
▶ RAIN：雨天時や滑りやすい路面の走行時に適したモードです。

それぞれの値（P、T、EB、D）の変更はできません。

USER1/USER2

それぞれの値（P、T、EB、D）の変更ができます。

初期設定

ライディングモード	P 値	T 値	EB 値	D 値 NC750X Dual Clutch Transmission
STANDARD	2	2	2	2
SPORT	3	1	3	4
RAIN	1	3	1	1
USER1	2*1	2*1, 2	2*1	2*1
USER2	2*1	2*1, 2	2*1	2*1

Notes:
*1：レベルの変更ができます。
*2：トルクコントロールがレベル 0 の状態でメインスイッチを ○（Off）にすると、次にメインスイッチを |（On）にしたときは自動でレベル 2 になります。

次ページに続く

ライディングモード 前ページの続き

P 値（エンジン出力レベル）

P 値は 3 段階の設定があります。

設定範囲：1 ～ 3

▶ レベル 1 は、最も低出力になります。

▶ レベル 3 は、最も高出力になります。

T 値（トルクコントロールレベル）

T 値は 3 段階の設定があり、0 にすることもできます。

設定範囲： 0 ～ 3

▶ レベル 1 は、トルクコントロールが最小になります。

▶ レベル 3 は、トルクコントロールが最大になります。

▶ レベル 0 はトルクコントロールが機能しません。

▶ トルクコントロールが 0 の状態でメインスイッチを ○（Off）にすると、次にメインスイッチを |（On）にしたときは自動で 2 になります。

EB 値（エンジンブレーキレベル）

EB 値は 3 段階の設定があります。

設定範囲：1 ～ 3

▶ レベル 1 は、エンジンブレーキの効果が弱くなります。

▶ レベル 3 は、エンジンブレーキの効果が強くなります。

NC750X Dual Clutch Transmission

D 値（D レベル）

D 値は 4 段階に調整できます。

設定範囲：1 ～4

▶ レベルを上げることで、より高いエンジン回転数を使用できます。

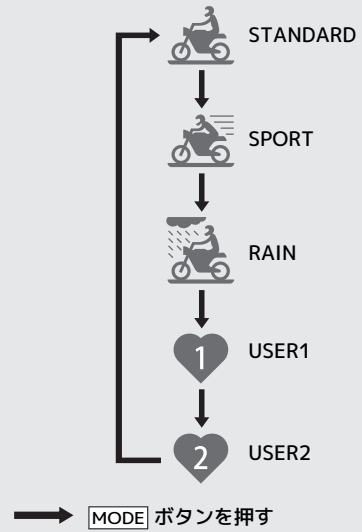
▶ レベル 1 は、エンジン回転数が最小になります。

▶ レベル 4 は、エンジン回転数が最大になります。

ライディングモードの切り換えかた

1. 車両を停止する。
2. スロットルグリップを完全に閉じた状態で MODE ボタンを押し、ライディングモードを選択する。





次ページに続く

ライディングモード 前ページの続き

ライディングモードの設定

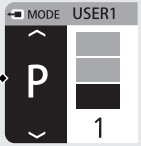
NC750X

ライディングモードの“USER1”と“USER2”では、P 値、T 値および EB 値の変更ができます。

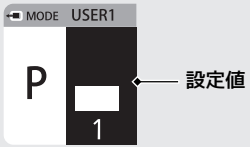
NC750X Dual Clutch Transmission

ライディングモードの“USER1”と“USER2”では、P 値、T 値、EB 値および D 値の変更ができます。

① 車両を停止する。
② ライディングモードで“USER1”または“USER2”を選択する。 P.79
③ 選択エリアにパラメーター設定が表示されるまで、MODE スイッチを押し続ける。
④ セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して項目を選択し、セレクトスイッチの ▶ を押す。

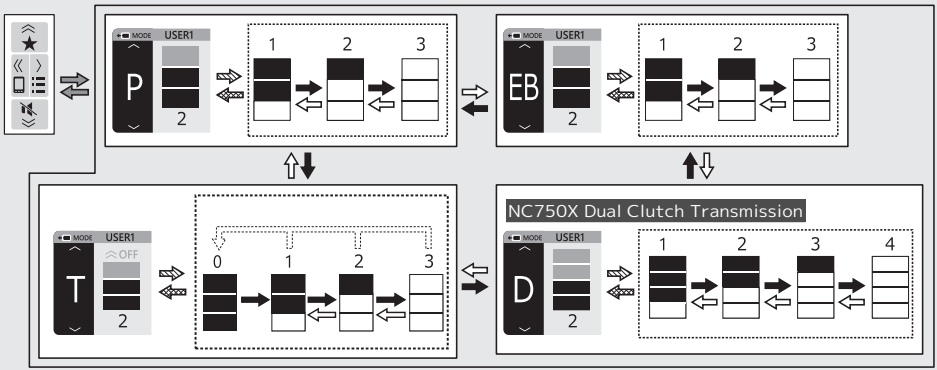


⑤ セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して値を変更する。
▶ T 値を設定中にセレクトスイッチの ▲ を押し続けると、トルクコントロールを OFF にすることができます。



⑥ 通常表示に戻るまで、MODE ボタンを押し続ける。

ライディングモードの設定は各種項目の設定でも変更できます。
ライドモード： P.40



MODE ボタンを押し続ける

セレクトスイッチの ▶ を押す

セレクトスイッチの ◀ を押す

セレクトスイッチの ▲ を押す

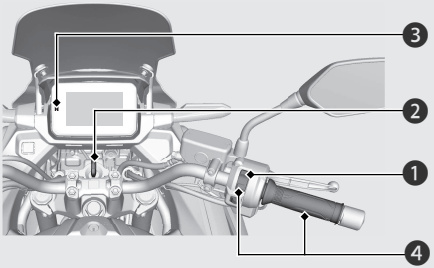
セレクトスイッチの ▼ を押す

セレクトスイッチの ▲ を押し続ける

エンジン始動

NC750X

始動するには、エンジン・冷却水の温度にかかわらず、次の手順で行ってください。

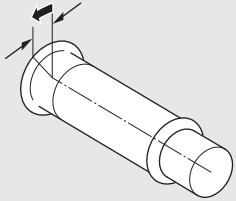


アドバイス

- スタースイッチを押して 5 秒以内でエンジンがかからないときは、一度メインスイッチを〇(Off)にしてください。その後バッテリー電圧回復のため 10 秒ほど経ってからやり直してください。
- 無用な空ぶかしや長時間のアイドリングはエンジンやマフラー、触媒装置に悪影響を与えます。
- 万一転倒した場合は、一旦メインスイッチを〇(Off)にしてください。再度走行を行う際は、各部の損傷状態や、走行に支障が無いかを十分に確認してください。

1. エンジンストップスイッチが ⟳ (Run) の位置にあるか確認する。
2. メインスイッチを | (On) に回す。
3. ギアをニュートラルにする。(表示灯点灯)
   - ▶ ギアが入った状態では始動しません。ただし、サイドスタンドが格納されている状態でクラッチレバーを握れば始動します。
4. スロットルグリップを閉じたまま、スタースイッチを押す。
   - ▶ もし、エンジンがかからない場合は、スロットルグリップをわずかに(遊びを除いて 3 mm 程度)回しながらスタースイッチを使用してください。

遊びを除いて 3 mm 程度



エンジンがかからないときは

次の方法を試してください。

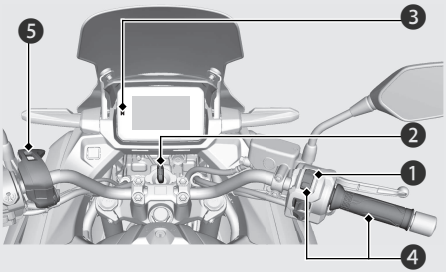
① スロットルグリップを全開にし、スタースイッチを 5 秒間押す
② 通常手順（❶ ～ ❹）でエンジンをかける。
③ エンジンがかかり、エンジン回転が安定しない場合はスロットルグリップを少し開ける。
④ エンジンがかからないときは 10 秒間待ってから、①②の手順を繰り返す。

それでも始動できないときは P.137

エンジン始動 前ページの続き

NC750X Dual Clutch Transmission

始動するには、エンジン・冷却水の温度にかかわらず、次の手順で行ってください。

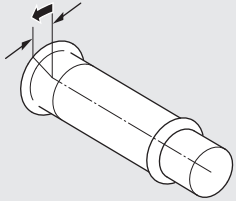


アドバイス

- スタータースイッチを押して 5 秒以内でエンジンがかからないときは、一度メインスイッチを◯(Off)にしてください。その後バッテリー電圧回復のため 10 秒ほど経ってからやり直してください。
- 無用な空ぶかしや長時間のアイドリングはエンジンやマフラー、触媒装置に悪影響を与えます。
- 万一転倒した場合は、一旦メインスイッチを◯(Off)にしてください。再度走行を行う際は、各部の損傷状態や、走行に支障が無いかを十分に確認してください。

1. エンジンストップスイッチが ⟳ (Run) の位置にあるか確認する。
2. メインスイッチを | (On) に回す。
3. ギアがニュートラルになっているか確認する。(表示灯点灯)
4. スロットルグリップを閉じたまま、スタータースイッチを押す。
   ▶ もし、エンジンがかからない場合は、スロットルグリップをわずかに(遊びを除いて 3 mm 程度)回しながらスタータースイッチを使用してください。

遊びを除いて 3 mm 程度



5. 走行前にパーキングブレーキが完全に解除されているか確認する。 ➡P.75

エンジンがかからないときは P.83

それでも始動できないときは P.137

エンジンを停止するときは

① ギアをニュートラルにする。（表示灯点灯）

► ニュートラル以外でメインスイッチを○（Off）にすると、クラッチが切れた状態でエンジンが停止します。

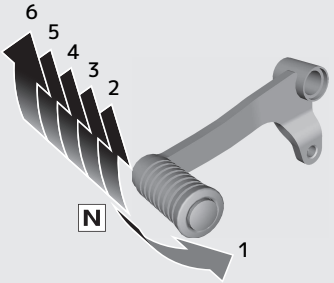
② メインスイッチを○（Off）に回す。

③ 駐車の際には、パーキングブレーキをかける。 P.75

ギアチェンジ

NC750X

この車のトランスミッションは、下 1 速、上 5 速シフトの 6 速リターン式です。速度に応じてギアを切り換えることが必要です。



走行前に、サイドスタンドが完全に納まっているか確認してください。
サイドスタンドを出したままギアチェンジを行うと、エンジンが停止します。

速度範囲

1 速 0 - 50 km/h
2 速 25 - 80 km/h
3 速 30 - 105 km/h
4 速 40 - 135 km/h
5 速 50 - 160 km/h
6 速 60 km/h 以上

シフトダウンについて

追い越しなど、強力な加速が必要なときはシフトダウンをします。高い速度でのシフトダウンは、尻振りなどの原因や、走行安定性を損なうほか、エンジンやトランスミッションに悪影響を与えます。次の速度内で行ってください。

シフトダウン可能限界速度

6 速→5 速 160 km/h 以下
5 速→4 速 135 km/h 以下
4 速→3 速 105 km/h 以下
3 速→2 速 80 km/h 以下
2 速→1 速 50 km/h 以下

NC750X Dual Clutch Transmission

この車は 6 速オートマチックトランスミッションを装備しています。AT モード時には自動的に変速し、MT モード時にはスイッチ操作で変速することができます。

速度範囲

1 速 0 - 50 km/h
2 速 25 - 80 km/h
3 速 30 - 105 km/h
4 速 40 - 135 km/h
5 速 50 - 160 km/h
6 速 60 km/h 以上

シフトダウンについて

追い越しなど、強力な加速が必要なときはシフトダウンをします。高い速度でのシフトダウンは、尻振りなどの原因や、走行安定性を損なうほか、エンジンやトランスミッションに悪影響を与えます。次の速度内で行ってください。

シフトダウン可能限界速度

6 速→5 速 160 km/h 以下
5 速→4 速 135 km/h 以下
4 速→3 速 105 km/h 以下
3 速→2 速 80 km/h 以下
2 速→1 速 50 km/h 以下

次ページに続く

ギアチェンジ 前ページの続き

NC750X Dual Clutch Transmission

DCT（デュアルクラッチトランスミッション）

DCT には AT モード（D）と MT モード（M）が装備されています。

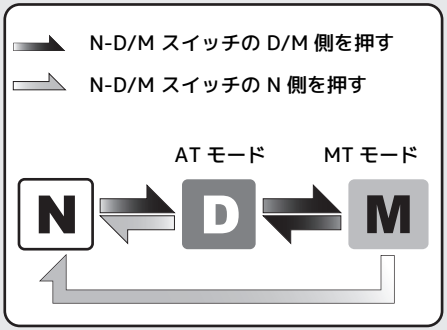
AT モード (D) では、走行状況に合わせた最適なタイミングで自動的にシフトアップ・シフトダウンが可能です。

MT モード（M）では、シフトスイッチ操作により、マニュアルでのシフトアップ・シフトダウンが可能です。

▶ DCT システムを正常に機能させるため、タイヤとスプロケットは前後とも指定のものをお使いください。

DCT システムは自己診断機能を備えており、エンジン始動直後にセルフチェックを実行します。

その為数秒間は、AT モード (D) に切り換えできません。



ニュートラル（N）：
メインスイッチを▌（On）にすると自動的に選択されます。

▌メインスイッチを▌（On）にしてもニュートラルにならない場合：

- メインスイッチを◯（Off）にし、再度▌（On）にする
- それでもニュートラルが選択されない場合 ➡P.143
  ▶ ギアがニュートラルに切り換わるときに音がすることがありますが、異常ではありません。

▌N と D の切り換え可能な条件：

- 停止した状態でアイドリングしている
- スロットルを完全に閉じている
  ▶ スロットル操作中は N と D の切り換えはできません。
- ホイールが静止している
  ▶ ホイールが回転している状態では、N と D の切り換えはできません。
- サイドスタンドが格納されている

アドバイス
クラッチの損傷をさけるため、長時間上り坂でスロットルを操作して停止状態を保たないでください。

ギアチェンジ 前ページの続き

オートマチック（AT）モード：
このモードでは走行状況に従って自動的にギアが変速されます。
シフトアップスイッチ（＋）、シフトダウンスイッチ（－）を使って、一時的にギアチェンジすることができます。カーブの手前など、一時的に減速したいときに便利です。➡P.92
追い越しや登坂、引き離しなど、より大きな駆動力が必要な場合は、D レベルを変更することができます。
D レベルを上げることでより高いエンジン回転数を使用できます。
D レベルは、ライディングモードで USER モードを選択しているときに設定したい値へ変更が可能です。
ライディングモード ➡P.76
D レベルの設定 ➡P.78 ➡P.80

マニュアル（MT）モード：
6 速マニュアル操作です。
シフトスイッチ操作により、任意に 1 速～ 6 速を選択できます。➡P.92

ニュートラルと AT、MT モードの切り換え

ニュートラル（N）から AT モードへの切り換え

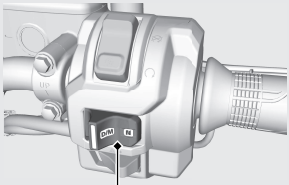
N-D/M スイッチの D/M 側を押します（①）。
ギアポジション表示に"1"が表示され（②）、ギアが 1 速に入ります。

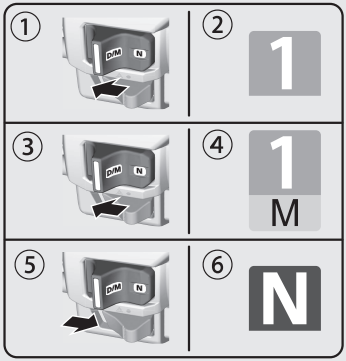
AT、MT モードからニュートラルへの切り換え

N-D/M スイッチの N 側を押します（③）。
MT モード選択時は、M 表示が（④）点灯します。

AT モードと MT モードの切り換え

N-D/M スイッチの N 側を押します（⑤）。
ギアポジションインジケータに N（⑥）が点灯します。





次ページに続く

ギアチェンジ 前ページの続き

MT モード時の走行

シフトアップスイッチ（+）、シフトダウンスイッチ（−）でシフトアップ、シフトダウンを行います。

選択されたギアは、ギアポジション表示に表示されます。

- ▶ MT モード時にギアは自動的にシフトアップしません。エンジン回転数がレッドゾーンに入らないようにしてください。
- ▶ MT モード時でも低速になると、ギアは自動的にシフトダウンします。
- ▶ MT モード時でも発進は 1 速から行います。

ギアチェンジの操作

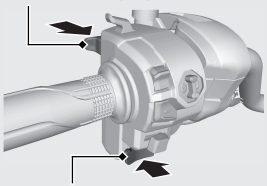
シフトアップ：

シフトアップスイッチ（+）を押します。

シフトダウン：

シフトダウンスイッチ（−）を押します。

- ▶ シフトスイッチを押したままでは連続で変速しません。続けて変速をするときは、一度シフトスイッチから指を離して再びシフトスイッチを押してください。



シフト制御

エンジン回転数がレブリミットを越える場合はシフトダウンはできません。

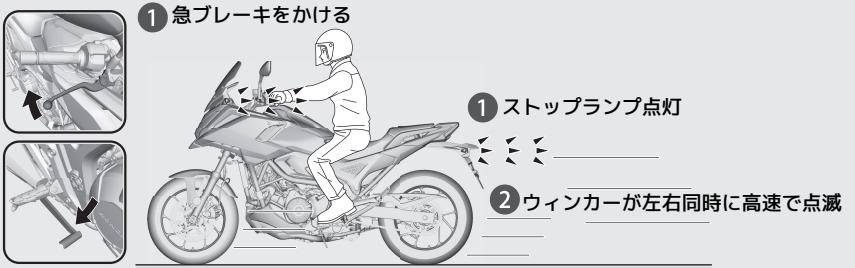
エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことをウィンカーが左右同時自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。
50 km/h 以上で走行しているときにシステムが急ブレーキを検知すると作動します。

エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキレバーおよびペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

作動の仕組み



次ページに続く

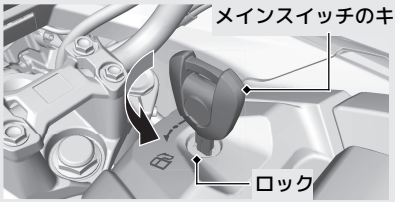
エマージェンシーストップシグナル 前ページの続き

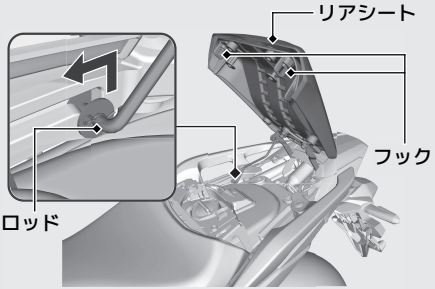
- ▶ エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。
- ▶ ハザードスイッチが ON のときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。
- ▶ ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

燃料補給

燃料補給にはリアシートを開ける必要があります。

リアシート





開けかた

❶ メインスイッチのキーをロックに差し込み、左に回してロックを解除する。

❷ リアシート前部を持ち上げる。

閉じかた

① ロッドを上方に引き上げる。

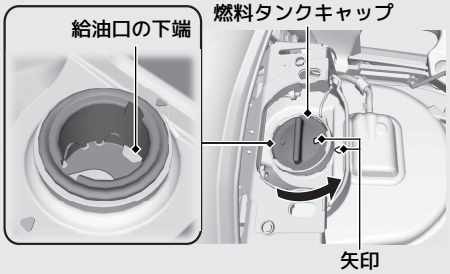
② シート前部を押し下げ、ロックする。

- ▶ シート前部を軽く持ち上げて、左右のフックにロックがかかっていることを確認してください。
- ▶ メインスイッチのキーをシート下に置き忘れた状態でシートを閉じると、自動的にロックされ、キーを取り出せなくなりますので注意してください。

③ キーを取り外す。

次ページに続く

燃料補給 前ページの続き



燃料がにじみ出ることがあるので、給油口の下端以上入れないでください。

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：14 ℓ

燃料についての注意 P.8

燃料タンクキャップの開けかた

❶ リアシートを開ける。 P.95
❷ 燃料タンクキャップを左に回して開ける。

燃料タンクキャップの閉じかた

① 燃料タンクキャップを右に回して閉める。
▶ 燃料タンクキャップの矢印とタンク上面の矢印が合うところまで確実に回してください。
② リアシートを閉じる。

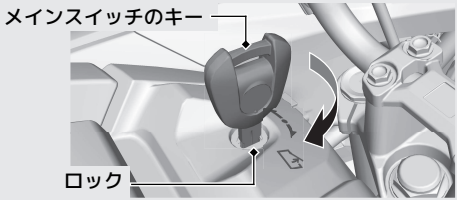
⚠ 警告

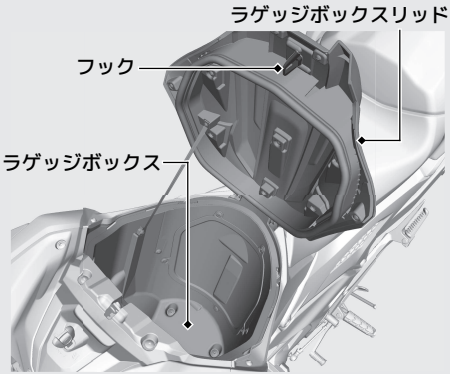
ガソリンは燃えやすいため、ヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

燃料補給およびガソリンの取り扱い P. 8

その他装備の使いかた

ラゲッジボックス





開けかた

❶ メインスイッチのキーをロックに差し込み、右に回してロックを解除する。

❷ ラゲッジボックスリッド前部を持ち上げる。

閉じかた

① ラゲッジボックスリッド前部を押し下げ、ロックする。

- ▶ ラゲッジボックスリッド前部を軽く持ち上げて、ロックがかかっていることを確認してください。
- ▶ メインスイッチのキーをラゲッジボックス内に置き忘れた状態でラゲッジボックスリッドを閉じると、自動的にロックされ、キーを取り出せなくなりますので注意してください。

② キーを取り外す。

最大積載量を超えて荷物を積まないでください。

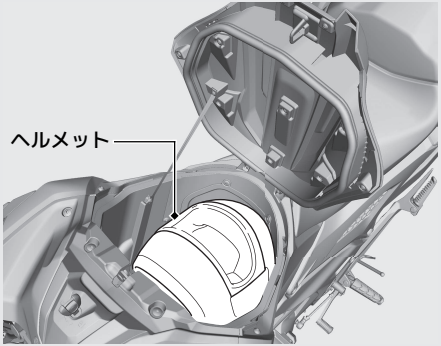
最大積載量: 5 kg

- ▶ ラゲッジボックス内に貴重品やこわれやすいもの、熱の影響を受けやすいものは入れないでください。

次ページに続く

その他装備の使いかた 前ページの続き

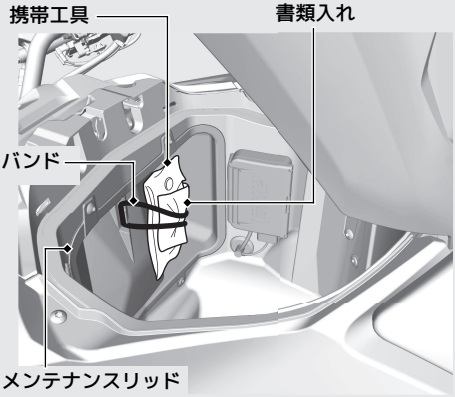
ラゲッジボックスにヘルメットを収納することができます。ヘルメットの前側を上方に向けて収納してください。



▶ ヘルメットの種類や形状、大きさなどにより、一部収納できない場合があります。

携帯工具／書類入れ

携帯工具と書類入れはメンテナンスリッド（ラゲッジボックス内）の上にバンドで収納します。

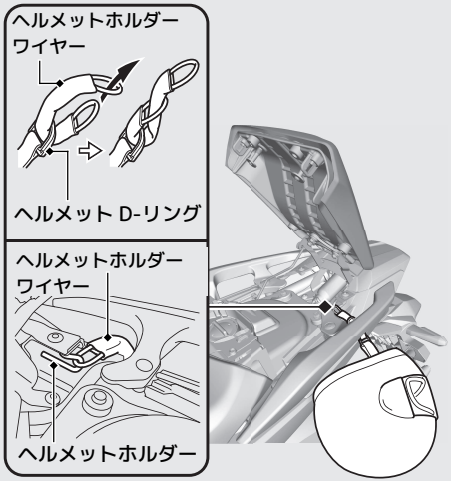


▶ 携帯工具と書類入れは、図のようにメンテナンスリッドの上に格納し、バンドでしっかりと固定してください。

ラゲッジボックスの開けかた P.97

ヘルメットホルダー

ヘルメットホルダーはリアシート下にあります。ヘルメットホルダーワイヤーは携帯工具に入っています。



▶ ヘルメットホルダーは駐車時のみお使いください。

リアシートの開けかた P.95

⚠ 警告

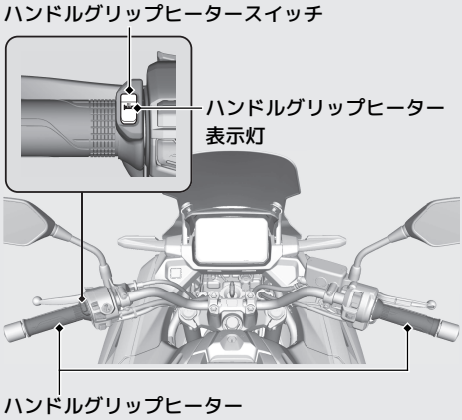
ヘルメットホルダーにヘルメットをつけたまま走行しないでください。

走行の妨げになり、重傷を負ったり死亡したりする事故が発生することがあります。

その他装備の使いかた 前ページの続き

ハンドルグリップヒーター

この車は、運転する際に手元を暖めるハンドルグリップヒーターを装備しています。ハンドルグリップヒーターを使用する際は、手袋を着用してください。



ハンドルグリップヒーター表示灯：
ハンドルグリップヒーター作動時に点灯する。ハンドルグリップヒーターを ON にしたとき、またはヒーターレベルを変更したときに、選択しているヒーターレベルを表示灯の点滅回数で表示する。（例えばヒーターレベル 5 を選択した場合、表示灯は 5 回の点滅を 7 回繰り返します。）

2 秒ごとに点滅したときは P.146

ハンドルグリップヒーターの使いかた

1. エンジンを始動する。
2. ハンドルグリップヒータースイッチを押し、ハンドルグリップヒーターを ON にする。
3. ハンドルグリップヒータースイッチを押し、ヒーターレベルを選択する。
   - ► ハンドルグリップヒーターの温度は外気温によって変化するので、暖かい日の高温度設定はさけてください。
   - ► 走行中は、ハンドルグリップヒータースイッチの操作を行わないでください。
4. OFF にするには、グリップヒーター表示灯が消えるまでハンドルグリップヒータースイッチを押す。
   - ► ハンドルグリップヒータースイッチを押し続けることでも OFF にできます。

次ページに続く

その他装備の使いかた 前ページの続き

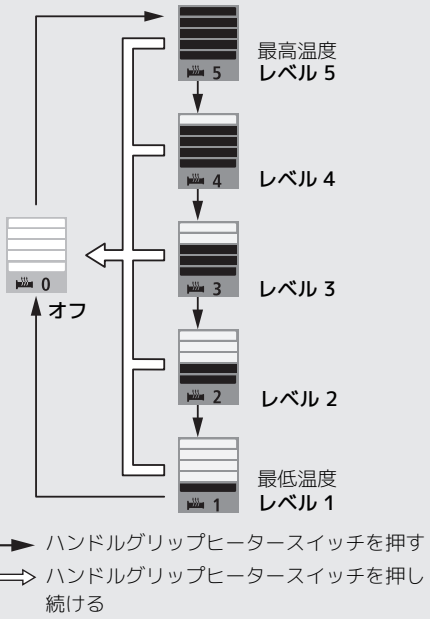
アイドリング状態での長時間のご使用はさけてください。バッテリーあがりの原因となります。

メインスイッチを ○（Off）にした場合、選択しているヒーターレベルは保持されます。

▶ ヒーターレベルの変更操作後、5 秒以内にメインスイッチを ○（Off）にした場合、ヒーターレベルは保持されません。

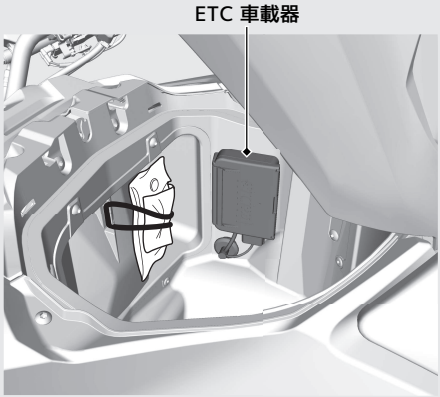
ヒーターレベル表示が点滅したときは

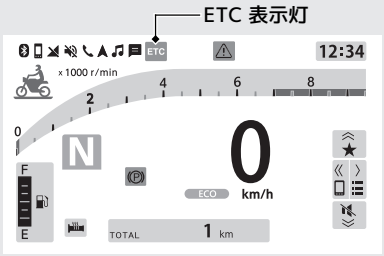
P.146

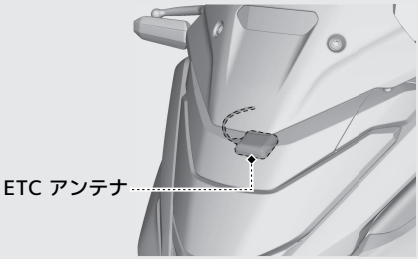


ETC 車載器／ ETC 表示灯／ ETC アンテナ

ETC 車載器の取り扱いについては、別冊の ETC 車載器取扱説明書をお読みください。







ETC アンテナはアッパーカウルの中にあります。

メンテナンス

メンテナンスを行う前に必ず「メンテナンスの基礎知識」をお読みください。
また、サービスデータについては「スペック」を参照ください。

メンテナンスの基礎知識 ..... P. 105
主要部品の脱着方法 ..... P. 116
クリップ ..... P. 116
バッテリー ..... P. 117
メンテナンスリッド ..... P. 118
ロアーフェアリング ..... P. 119
エンジンオイル ..... P. 121
冷却水 ..... P. 123
ブレーキ ..... P. 125
ドライブチェーン ..... P. 128
クラッチ ..... P. 129
ブリーザードレーン ..... P. 132
スロットル ..... P. 133
その他の調整 ..... P. 134
ブレーキレバーの距離調整 ..... P. 134
リアサスペンションの調整 ..... P. 135

メンテナンスの基礎知識

メンテナンスの重要性

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行っていただく日常点検と、1 年ごと（12 か月ごと）、2 年ごと（24 か月ごと）の定期点検整備が義務付けられています。安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

⚠ 警告

誤った点検整備や、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- 異状箇所は乗車前に修理してください。

安全なメンテナンスのために

メンテナンスにあたっては、次のことに注意してください。

- エンジンを停止し、キーを抜いた状態で行う
- 平坦地で足場のしっかりとした場所で行う
- エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分はヤケドのおそれがあるので、冷えるまで触れない
- エンジンを始動して作業をする場合は、換気を十分に行う

日常点検

安全快適にご使用いただくために法令に従って、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。
点検時期の目安としては、長距離走行や洗車時、給油時などに実施し、その結果をメンテナンスレコードに記入してください。
異音や異状を感じたときは、直ちに Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

日常点検項目

この車には下記の日常点検項目が適用されます。

- **ブレーキ**
  - レバーの遊び（油圧式）
  - ペダルの遊び（油圧式）
  - ブレーキの効き具合
  - ブレーキ液の量
- **タイヤ**
  - 空気圧
  - 亀裂、損傷
  - 異状な摩耗
  - 溝の深さ
- **エンジン**
  - 冷却水の量
  - オイルの量
  - かかり具合、異音
  - 低速、加速の状態
- **灯火装置および方向指示器**
- **運行において異状が認められた箇所**
- **ドライブチェーンの緩み（Honda 指定）**

定期点検

安全快適にお車をご使用いただくために、定期点検を必ず実施してください。

また、これらの他にも使い始めてから 1 か月目（または、1,000 km 時）に行う点検、Honda が指定する点検整備項目もあります。

道路運送車両法で定められた点検

道路運送車両法で定められた点検には、以下の種類があります。

- 日常点検
- 1 年ごと（12 か月ごと）に行う点検
- 2 年ごと（24 か月ごと）に行う点検

小型二輪車［250 cm^3（cc）を超えるもの］は、1 回目を登録日から 3 年後に、2 回目以降は 2 年ごとに、国で定める継続検査が必要です。

ご自身で点検を実施する場合

安全のため、ご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、Honda 販売店にご相談ください。
点検結果は、メンテナンスノートの定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

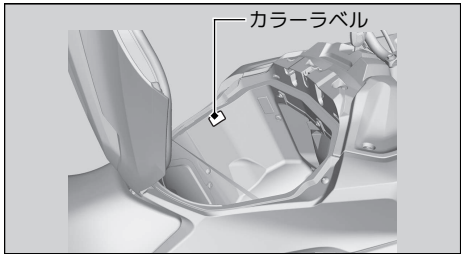
1 か月目点検について

新車から 1 か月目（または、1,000 km 時）は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取り扱いいたします。お買いあげの Honda 販売店で行ってください。他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。詳細については、メンテナンスノートをご覧ください。

交換部品について

整備の際は、Honda 純正部品を使用してください。色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

カラーラベルは、ラゲッジボックスを開けると確認できます。 P. 97



⚠ 警告

Honda 純正部品以外のアクセサリー・部品の使用や、不正な改造は思わぬ事故の原因となり、重傷を負ったり、死亡したりすることがあります。

Honda 純正部品を使用してください。

バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリーを使用しており、バッテリー液の点検、補給は必要ありません。バッテリーのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。
また、密閉式の液口キャップは絶対に取り外さないでください。バッテリー充電時も液口キャップを取り外す必要はありません。

アドバイス
バッテリーには寿命があります。交換時期については、Honda 販売店にご相談ください。交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリーを使用してください。

万一の場合の応急処置

以下のようなときは、応急処置したあと、直ちに医師の診察を受けてください。

- 電解液が眼に付着したとき
  ▶ コップなどに入れた水で、15 分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、眼を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚に付着したとき
  ▶ 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
  ▶ 水、または牛乳を飲んでください。

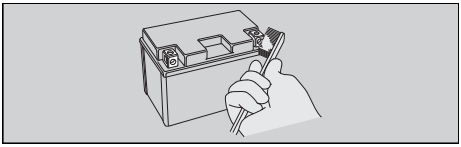
⚠ 警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、眼や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- バッテリーの近くで作業するときは、保護メガネと保護服を着用
- バッテリーを子供の手の届く所に置かない
- ショートによる火花やたばこなどの火気に十分注意する

ターミナル部の清掃

1. バッテリーを取り外す。 P. 117
2. ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭く。
3. ターミナル部の腐食が著しいときは、ワイヤーブラシまたはサンドペーパーで磨く。



4. 清掃後、バッテリーを取り付ける。

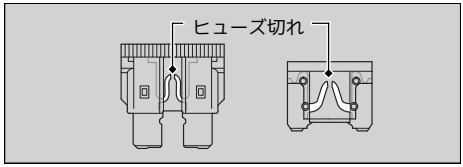
電装部品やアクセサリーを取り付けるときは純正アクセサリーをご使用ください。それ以外のものを使用するとバッテリーあがりや故障の原因となります。

ヒューズ

この車の電気回路は、ヒューズで保護されています。電装部品が動作しないときは、ヒューズを調べ、必要に応じて交換してください。 P. 149

ヒューズの点検・交換

メインスイッチを○（Off）にして、ヒューズを取り外して点検します。切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換してください。
ヒューズの容量はスペックページをご確認ください。 P. 168



アドバイス
指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、ヒューズの劣化以外の原因が考えられます。 Honda 販売店にご相談ください。

エンジンオイル（トランスミッションオイル）

エンジンオイルは走行距離や走行状況、時間の経過とともに劣化したり減っていきます。そのため、定期交換時期に行う交換だけではなく日常点検によるオイル点検・補給が必要です。汚れたり古くなったオイルはエンジンに悪影響を与えますので早めに交換してください。
オイル交換は Honda 販売店で行うことを推奨します。交換時期はスペックページをご確認ください。➡P. 167

エンジンオイル（トランスミッションオイル）の選びかた

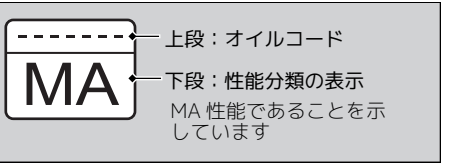
推奨エンジンオイル（トランスミッションオイル）：
Honda 純正 ウルトラ G1

相当品をご使用の場合は、オイル容器の表示を確認し、下記の全ての規格を満たしているオイルをお選びください。全ての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

- JASO T 903 規格※1：MA
- SAE 規格※2：10W-30
- API 分類※3：SJ 級以上

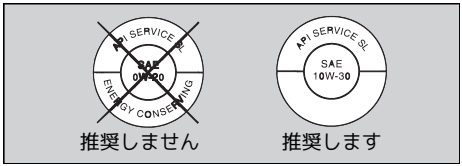
また、必要以上に摩擦を低減するオイル添加剤はエンジンやクラッチの性能や寿命に悪影響を与える場合がありますので使用しないでください。

※1: JASO T 903 規格は、二輪車用 4 サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



※2: SAE 規格は、オイルの粘度を定めた規格です。

※3: API 分類は、エンジンオイルのグレードに関する分類です。API マークの入っている相当品を使用する場合、下記のものをご使用ください。



推奨しません　推奨します

ブレーキ液

銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。ブレーキ液が変質したりブレーキ装置の故障の原因となることがあります。

アドバイス

ブレーキ液は、プラスチックや塗装面を損傷します。漏れたブレーキ液は直ちに拭き取ってください。

指定ブレーキ液：

Honda 純正ブレーキフルード
DOT4

冷却水

Honda 純正ウルトララジエーター液を、蒸留水または水道水で下記濃度に薄めてお使いください。

標準濃度：50%
濃度による不凍温度：
30% の場合：-16°C まで
50% の場合：-36°C まで

アドバイス

指定以外のラジエーター液や不適当な水（井戸水や天然水）を使うと、サビなどの原因となります。

エアクリーナー

この車には、ろ紙にオイルを含ませたビスカス式のエアクリーナーエレメントが装備されており点検・清掃は不要ですが定期的な交換が必要です。
エアクリーナーエレメントの交換は、Honda 販売店にご相談ください。交換時期はスペックページをご確認ください。➔ P. 167

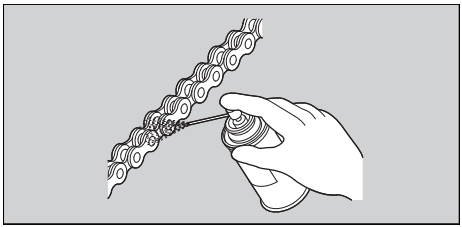
ドライブチェーン

チェーンは、定期的に点検および給油を行ってください。また悪路走行が多い場合や連続高速走行、急加速を繰り返すような運転を行う場合には、頻繁に点検を行ってください。➡P. 128
チェーンの異常（回転が滑らかでない、異音、固着、ローラーやO−リングの損傷）は、Honda 販売店にご相談ください。

ドライブチェーンの清掃と給油

緩み（たるみ）の点検後、車体を前後に動かし、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れを中性洗剤またはチェーンクリーナーを使用し、乾いた布などで落とします。汚れがひどい場合、やわらかいブラシを使用してください。汚れを落としたあとは、十分に乾燥させ、推奨オイルをチェーンローラーの両側に給油してください。

推奨オイル：
Honda 純正チェーンオイルまたは相当品



チェーンは、ゴムのシールを使用しているため、スチーム / 高圧洗浄、ワイヤーブラシ、ガソリンやベンゼンなどの揮発性溶剤、研磨材が入っている洗剤は使用しないでください。
シール（O-リング）チェーン専用の、クリーナーや潤滑油（チェーンスプレーなど）以外は使用しないでください。
オイルがブレーキやタイヤに付着しないようにしてください。チェーンにオイルをつけ過ぎると、衣服や車に飛び散り汚しますので、オイルをつけ過ぎないよう注意してください。

ブリーザードレーン

エンジンの性能を維持するためには、定期的なブリーザードレーンの清掃が必要です。➡P. 132

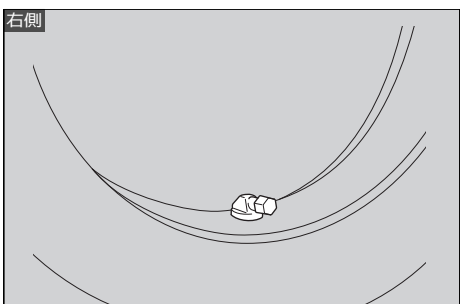
タイヤ

空気圧の点検

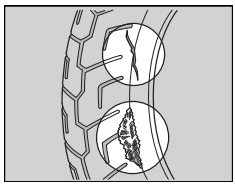
タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいため、少なくとも 1 か月ごとにタイヤゲージを使用して空気圧を点検してください。

タイヤは、走行後は温まり空気圧が高くなることがありますので、必ず冷えた状態で点検してください。

エアーバルブの向きがかわっていても、もとに戻そうとせず、Honda 販売店にご相談ください。

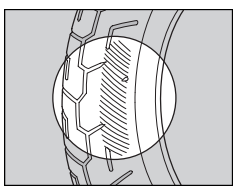


亀裂と損傷の点検



タイヤの全周に、亀裂や損傷、ひび割れおよび釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

異状な摩耗の点検

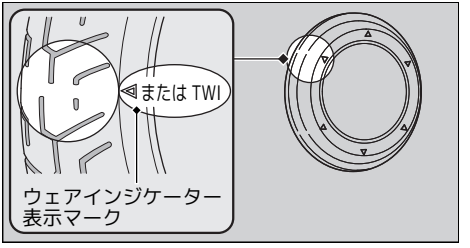


タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。

次ページに続く

溝の深さの点検

ウェアインジケーター（スリップサイン）により溝の深さを確認します。サインが現れたときは、直ちに交換してください。また、安全走行のため、トレッド中央部の溝の深さが最小残溝量になったときは交換してください。



⚠ 警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

タイヤの交換は、Honda 販売店にご相談ください。指定タイヤ、空気圧、最小残溝量（溝の深さ）はスペックページをご確認ください。➔ P. 167

- ホイールバランス調整のためにバランスウェイトを貼り付けるときは、Honda 純正部品、又は同等品のバランスウェイトを使用してください。

⚠ 警告

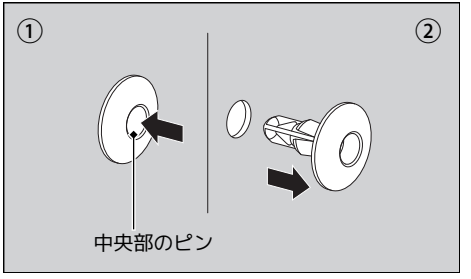
指定以外のタイヤを取り付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。また、そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取り付けてください。

クリップ

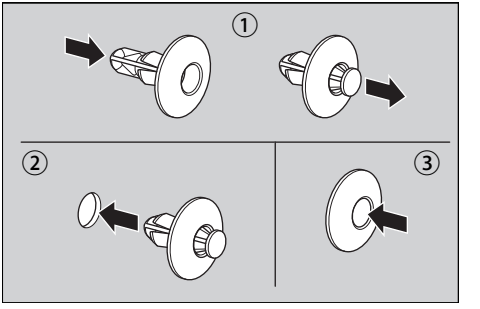
取り外し

1. 中央部のピンを押し込んでロックを解除する。
2. クリップを引き抜く。

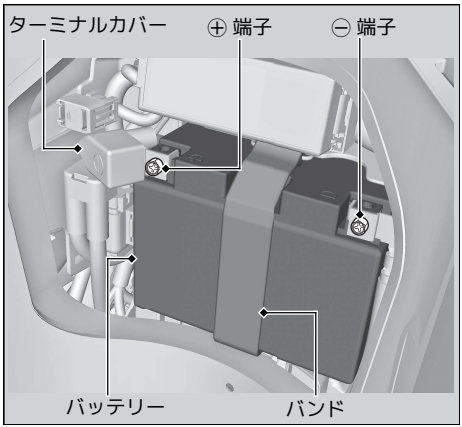


取り付け

1. ピンの下端を押し戻して取り付け状態にする。
2. クリップを穴に差し込む。
3. ピンを軽く押してロックする。



バッテリー



▌取り外し

メインスイッチが〇（Off）になっていることを確認してください。

1. ラゲッジボックスを開ける。 ➡P. 97

2. メンテナンスリッドを取り外す。 ➡P. 118

3. バンドを取り外す。

4. ⊖ アース端子のボルトを外し、⊖ コードを外す。

5. ターミナルカバーをめくり、⊕ 端子のボルトを外し、⊕ コードを外す。

6. 端子のナットを落とさないよう、バッテリーを取り出す。

▌取り付け

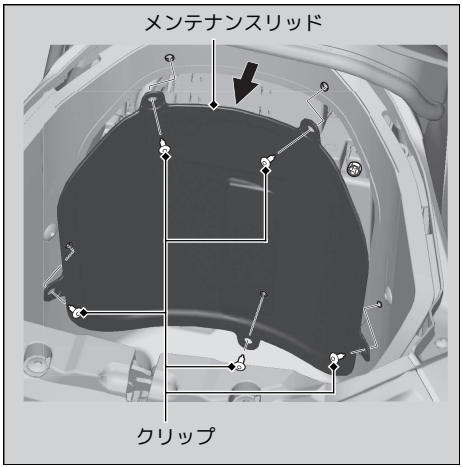
取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。

バッテリーコードは、必ず先に⊕側より取り付けてください。また、ターミナル部にゆるみが生じないように、確実にボルトを締め付けてください。

バッテリーコードを再び取り付けたときに、時計の表示がずれている場合は合わせ直してください。 ➡P. 49

バッテリーの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。 ➡P. 108

メンテナンスリッド



取り外し

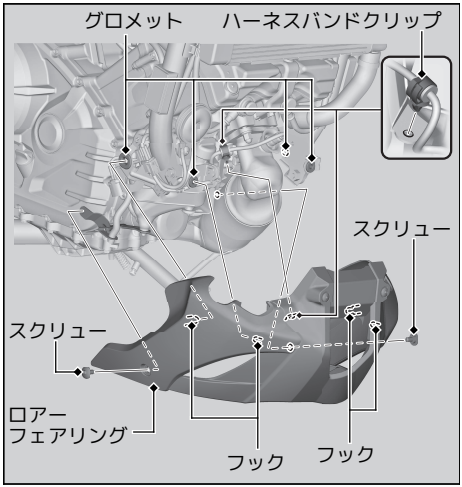
1. ラゲッジボックスを開ける。 P. 97
2. クリップを外す。 P. 116
3. メンテナンスリッドを取り外す。

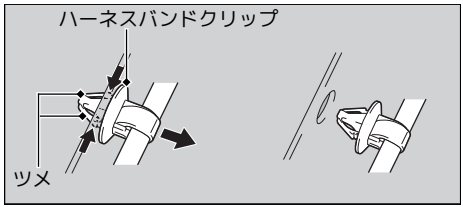
取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。

ロアーフェアリング

NC750X





取り外し

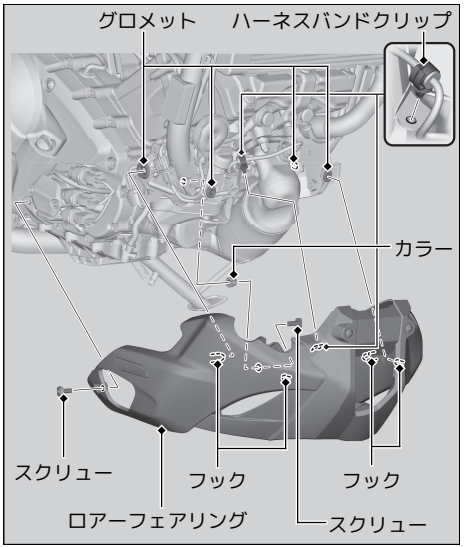
1. スクリューを取り外す。
2. フックをグロメットから外す。
3. ツメを押しながらハーネスバンドクリップを外し、ロアーフェアリングを取り外す。
   ▶ ハーネスワイヤーを損傷させないように注意してください。

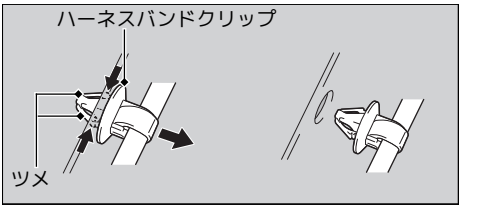
取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。

次ページに続く

NC750X Dual Clutch Transmission





取り外し

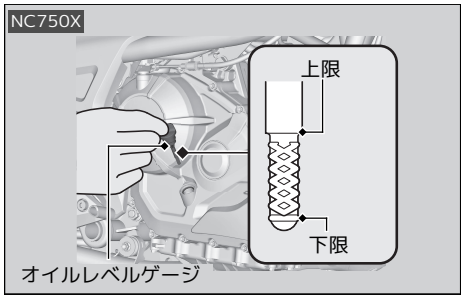
1. スクリューとカラーを取り外す。
2. フックをグロメットから外す。
3. ツメを押しながらハーネスバンドクリップを外し、ロアーフェアリングを取り外す。
   ▶ ハーネスワイヤーを損傷させないように注意してください。

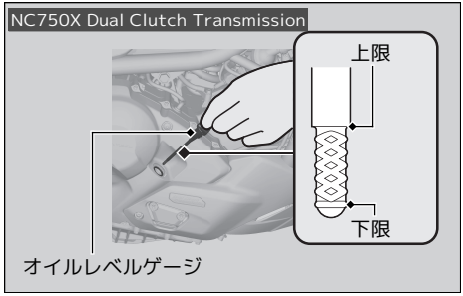
取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。

オイルの量の点検

1. エンジンが冷えている場合は、3 ～ 5 分ほどアイドリングさせる。
2. メインスイッチを○（Off）にしてエンジンを止め、2 ～ 3 分間待つ。
3. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立てる。
4. オイルレベルゲージを外す。
5. 布等でオイルレベルゲージについたオイルを拭く。
6. 車を倒さないようにまっすぐに起こす。
7. オイルレベルゲージをねじ込まずに差し込む。
8. オイルがオイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認する。
9. オイルレベルゲージを確実に取り付ける。





オイルの補給

エンジンオイルが不足している、またはオイルレベルが下限に近いときは、推奨エンジンオイルを上限まで補給してください。 ➔P. 110, ➔P. 167

1. エンジンオイルの点検後、オイルレベルゲージで確認（➔P. 121）しながら、オイルを注入口より補給する。
   - ▶ 上限を超えて補給しないでください。
   - ▶ ゴミが入らないようにしてください。
   - ▶ オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。
2. オイルレベルゲージを確実に取り付ける。

アドバイス

オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。また銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。

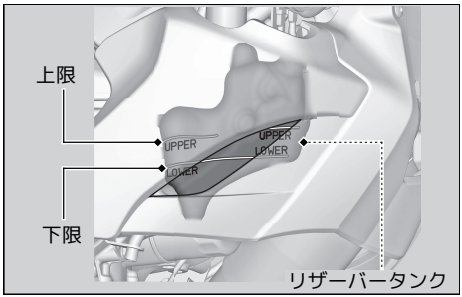
推奨エンジンオイルやオイルの選びかたについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。 ➔P. 110

オイル漏れの点検

エンジンなどから、オイルが漏れていないことを確認します。

冷却水の量の点検

1. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立てる。
2. 車を倒さないようにまっすぐに起こす。
3. 冷却水がリザーバータンクの上限（UPPER）と下限（LOWER）の間にあることを確認する。

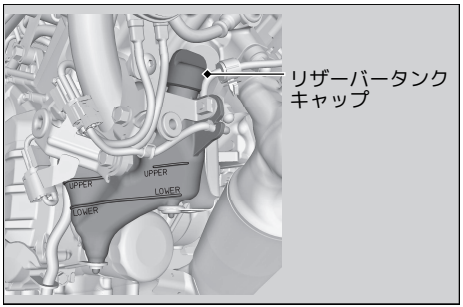


冷却水の減り具合が著しいとき、またはリザーバータンクに冷却水がない場合は水漏れが考えられます。Honda 販売店にご相談ください。

冷却水の補給

冷却水の補給はリザーバータンクキャップから行い、ラジエーターキャップは外さないでください。

1. 冷却水の点検後、ロアーフェアリングを取り外す。 ➡P. 119 ➡P. 120
2. リザーバータンクキャップを取り外す。
3. 平坦地で車体を垂直にし、冷却水（➡P. 111）のレベルを確認（➡P. 123）しながら補給する。
   - ▶ 上限（UPPER）を超えて補給しないでください。
   - ▶ ゴミが入らないようにしてください。
4. リザーバータンクキャップを確実に取り付ける。
5. ロアー フェアリングを取り付ける。



⚠ 警告

エンジンが熱いときにラジエーターキャップを外すと冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。

ラジエーターキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエーターが冷えていることを確認してください。

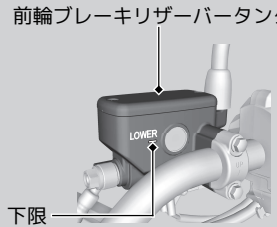
ブレーキ液の点検

1. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立てる。
2. フロント リザーバータンク上面を水平にし、液面が点検窓の下限（LOWER）以上にあることを確認する。
3. リア リザーバータンク上面を水平にし、液面が上限（UPPER）と下限（LOWER）の間にあることを確認する。

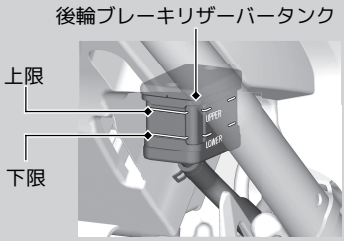
▶ 液面が下限（LOWER）以下の場合は、ブレーキパッドの摩耗の点検を行ってください。

パッドが摩耗していない場合、あるいは液漏れやホースに損傷があるときは Honda 販売店にご相談ください。

フロント



リア

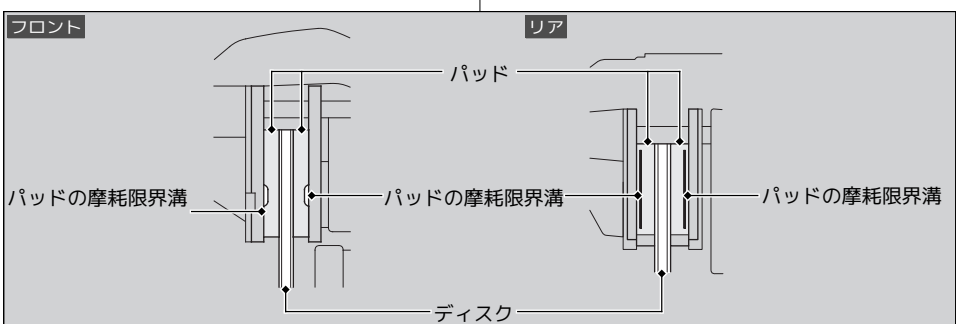


ブレーキパッドの摩耗の点検

パッドの摩耗限界溝がブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。
摩耗限界に達したら左右同時にパッドを交換してください。
ブレーキパッドの交換は、Honda 販売店にご相談ください。

▶ 点検は片側だけでなく、左右のキャリパーで行ってください。

1. フロント ブレーキキャリパーの下側からのぞいて点検します。
2. リア ブレーキキャリパーの右後側からのぞいて点検します。

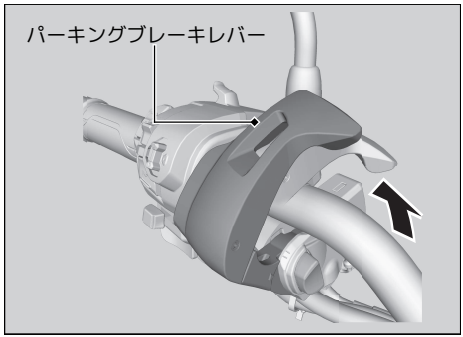


パーキングブレーキの点検（Honda 指定１年点検整備項目）

NC750X Dual Clutch Transmission

1. 足場のしっかりとした平坦地でエンジンを停止させる。
2. パーキングブレーキレバーを引いてから車を押し、パーキングブレーキの効き具合を点検する。

パーキングブレーキの効きが弱い時は Honda 販売店にご相談ください。



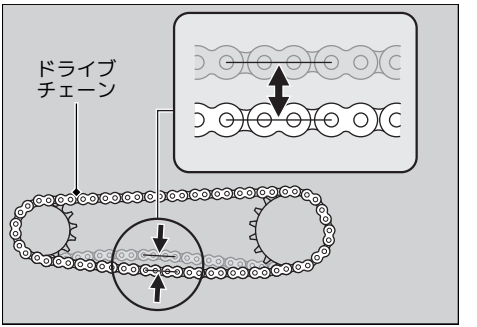
緩み（たるみ）の点検

チェーンの緩み（たるみ）が適正かどうか、滑らかに回転するか点検します。緩み（たるみ）が規定の範囲を超えている場合、回転が滑らかでないときは Honda 販売店にご相談ください。

1. トランスミッションをニュートラルに入れて、エンジンを停止する。
2. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立てる。
3. 前後のスプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンの緩みが規定の範囲内にあることを確認する。

ドライブチェーンの緩み（たるみ）：
25 - 35 mm

▶ 緩みが 50 mm 以上の場合、絶対に走行しないでください。



4. 車体を垂直にし、車体を前後に動かしてチェーンが滑らかに回転することを確認する。
   ▶ チェーンの回転が滑らかでない場合や、異音が出る場合は清掃と給油を行ってください。P. 112

クラッチの点検

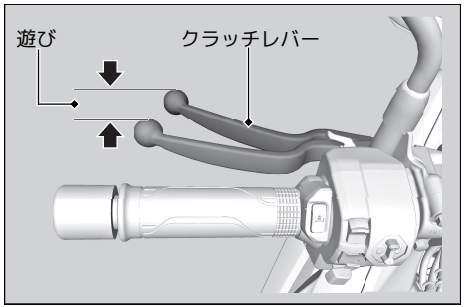
NC750X

スムーズに動くかどうか、ハンドルを左右にきっても作動が重くないか、クラッチレバーの遊びが適正か点検します。

遊びが規定の範囲を超えている場合は調整してください。

異状を感じた場合やクラッチケーブル外表部に損傷があるときは Honda 販売店にご相談ください。

クラッチレバーの遊び：
10 - 20 mm

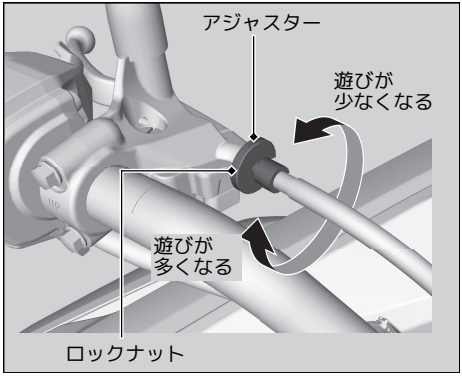


クラッチの調整

NC750X

調整はクラッチレバー側から行います。

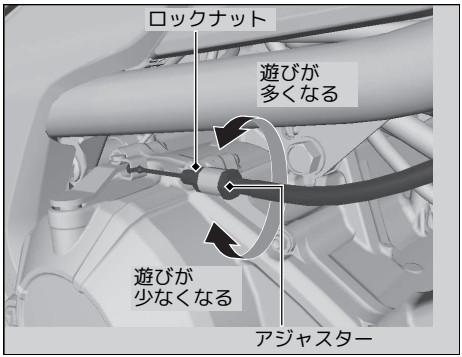
クラッチレバー側の調整（微調整）



1. ロックナットを緩め、遊びが規定の範囲になるまでアジャスターで調整する。
2. ロックナットを締め付け、クラッチレバーの遊びを確認する。

調整しきれない場合、クラッチ側で調整します。

クラッチ側の調整（主調整）



1. クラッチレバー側のアジャスターで遊びを最大にする。P. 130
2. ロックナットを緩める。
3. 遊びが規定の範囲になるまでアジャスターで調整する。
4. ロックナットを締め付ける。

調整後は、クラッチレバーの遊びを確認してください。
エンジンをかけ、チェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出し等がないことを確認してください。

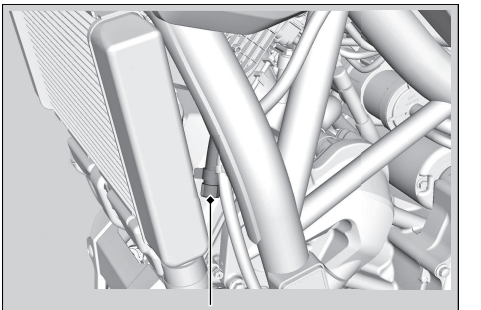
規定の数値に調整できない場合や、クラッチが正しく動作しないときは Honda 販売店にご相談ください。

ブリーザードレーンの清掃（Honda 指定 1 年点検整備項目）

エンジンの性能を維持するためには、定期的なブリーザードレーンの清掃が必要です。
エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラーやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

清掃のしかた

1. ブリーザードレーンプラグの下に受け皿などを用意する。
2. ブリーザードレーンプラグを外し、ブリーザードレーン内の堆積物を取り除く。
3. ブリーザードレーンプラグを確実に取り付ける。



スロットルの点検

メインスイッチを〇（Off）にした状態でスロットルを作動させ、スムーズに動くかどうか点検します。異状を感じた場合は Honda 販売店にご相談ください。

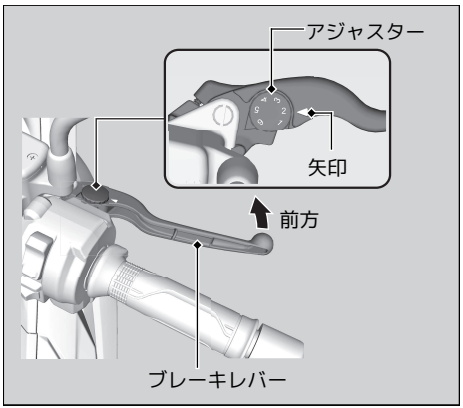
ブレーキレバーの距離調整

ブレーキレバーに、レバーとハンドルグリップの間隔を調整できるアジャスターが装備されています。

調整方法

レバーを前方に押しながらアジャスターを回し、アジャスターの数字と矢印が合う位置で段階的に調整します。

調整後は、走行する前にブレーキが正常に作動することを確認してください。



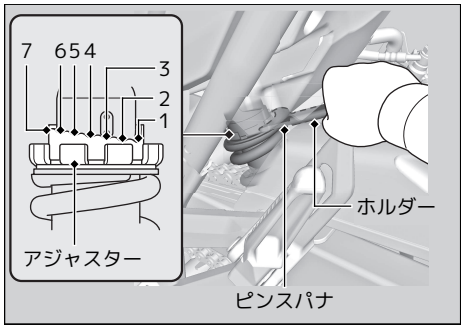
アドバイス

調整範囲を超えてアジャスターを回さないでください。

リアサスペンションの調整

スプリングの強さ

体重や路面の状態に応じ、スプリングの強さを調整できます。調整にはピンスパナとホルダーを使いアジャスターを回して行います。スプリングの強さは 1 ～ 2 にすると弱くなり、4 ～ 7 にすると強くなります。標準は 3 です。



アドバイス

アジャスターを直接 1 から 7 または 7 から 1 に無理に回すとリアクッションが破損します。

アドバイス

アジャスターは、無理に回さないでください。

こんなときは

エンジンが始動しない（HISS 表示灯が消灯しない） ..... P. 137
オーバーヒート（水温警告灯が点灯） ..... P. 138
警告灯が点灯／点滅 ..... P. 139
油圧警告灯 ..... P. 139
PGM-FI 警告灯 ..... P. 140
ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯 ..... P. 141
トルクコントロール警告灯 ..... P. 142
走行中にギアポジション表示の"-" 表示が点滅 ..... P. 143
その他の故障表示 ..... P. 144
燃料計の故障表示 ..... P. 144
水温計の故障表示 ..... P. 145
ハンドルグリップヒーターの故障表示 ..... P. 146
スマートフォンのペアリングトラブル ..... P. 147
電装部品のトラブル ..... P. 149
ヒューズ切れ ..... P. 149

スターターモーターは作動するがエンジンが始動しないとき

次の点を確認してください。

- 正しい手順でエンジンをかけているか ➡P. 82
- 燃料タンクにガソリンはあるか
- PGM-FI 警告灯が点灯していないか
  - ▶ 点灯している場合は、直ちに Honda 販売店にご相談ください。
- HISS 表示灯が点灯したままになっていないか
  - ▶ メインスイッチを〇（Off）にしてキーを抜き、再度キーを差し込み、メインスイッチを|（On）にしてください。それでも消灯しないときは、次の点を確認してください。
    他の HISS のキー（予備のキーを含む）が、メインスイッチの近くにあると通信不良の原因となります。
    キーに金属製のシールなどを貼ると通信不良の原因となります。
    確認しても消灯しない場合は、Honda 販売店にご相談ください。

スターターモーターが作動せず始動できないとき

次の点を確認してください。

- 正しい手順でエンジンをかけているか ➡P. 82
- ヒューズが切れていないか ➡P. 109
- バッテリーターミナル部に緩みや腐食がないか ➡P. 108

これらに該当しない場合や異常がある場合は、Honda 販売店にご相談ください。

オーバーヒート（水温警告灯が点灯）

次のようなときは、オーバーヒートです。
- 水温警告灯が点灯している
- 走行時の加速が急に悪くなる

このようなときは直ちに安全な場所に車を停めて次の処置・確認を行ってください。

アドバイス
オーバーヒートの状態で走行を続けると、エンジン故障の原因となります。

長時間のアイドリングにより、水温警告灯が点灯する場合があります。

オーバーヒートの処置

1. メインスイッチを○（Off）にしてエンジンを止め、再度メインスイッチを|（On）にする。
2. ラジエーターの冷却ファンが作動するか作動音で確認し、メインスイッチを○（Off）にする。

冷却ファンが作動しない場合
故障が考えられますので、エンジンをかけずHonda 販売店にご相談ください。

冷却ファンが作動している場合
メインスイッチが○（Off）の状態で、エンジンが冷えるのを待ちます。

3. エンジンが冷えてから、リザーバータンクの冷却水を点検し、冷却水が不足していたら補給する。➔P. 123, ➔P. 124
4. ラジエーターホースなどを点検し、水漏れがないか確認する。

水漏れがある場合
エンジンをかけず、Honda 販売店にご相談ください。

5. 水温警告灯を確認しながら走行する。
   ▶ 異常がなければ走行可能ですが、異常が再発しない場合でも、なるべく早くHonda 販売店で点検を受けてください。

油圧警告灯

エンジンオイルの油圧が低下すると点灯します。油圧警告灯が点灯したら、速やかにエンジンを停止し、次の点を確認してください。

アドバイス
油圧が低下した状態で走行を続けると、エンジンが故障するおそれがあります。

1. オイルレベルを点検し、必要に応じて補給する。 P. 121
2. エンジンを始動する。
   - ▶ 油圧警告灯が消えたら、走行できます。
   - ▶ 消灯しない場合は、エンジンを止めてHonda 販売店にご相談ください。
   - ▶ 急な加速をすると油圧警告灯が瞬間的に点灯する場合があります。（特にオイルレベルが下限、下限付近の場合）
   - ▶ オイルが減っていた場合、オイル漏れや故障のおそれがありますので、Honda 販売店で点検を受けてください。

PGM-FI 警告灯

点灯/点滅の理由

- エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。
- エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

点灯したときは

高速走行をさけ、直ちに Honda 販売店で点検を受けてください。

アドバイス

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

アドバイス

エンジン再始動後、PGM-FI 警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯

警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、Honda 販売店にご相談ください。

- 運転中に点灯または点滅したとき
- メインスイッチを▌（On） にしても点灯しないとき
- 10 km/h 以上で走行しても消灯しないとき

警告灯が点灯または点滅した場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。（ABSとしての作動はしません）

ABS 警告灯が消灯しているときに、後輪が持ち上がった状態で後輪を空転させると、警告灯が点滅する場合があります。この場合はメインスイッチを〇（Off） にし、再度メインスイッチを▌（On） にします。警告灯が点灯し、速度が約 30 km/h に達して消灯すれば正常です。

トルクコントロール警告灯

警告灯が以下のような状態になった場合、トルクコントロールの異常が考えられますので、Honda 販売店にご相談ください。

- 走行中に点灯し続けたとき
- メインスイッチを|（On）にしても点灯しないとき
- 5 km/h 以上で走行しても消灯しないとき

警告灯が点灯した場合でも走行は可能です。（トルクコントロールは作動しません）

▶ トルクコントロール作動中に警告灯が点灯したときは、一度スロットルグリップを完全に閉じることで、通常の状態に戻ります。

トルクコントロール警告灯が消灯した状態で、メインスタンドを立てるなどして後輪を空転させた場合、警告灯が点灯する場合があります。この場合はメインスイッチを○（Off）にし、再度メインスイッチを|（On）にします。警告灯が点灯し、速度が約 5 km/h に達して消灯すれば正常です。

走行中にギアポジション表示の“-” 表示が点滅

NC750X Dual Clutch Transmission

走行中にギアポジション表示の“-”表示が点滅したときはデュアルクラッチトランスミッションの異状が考えられます。

直ちに安全な場所に車を停めて Honda 販売店にご相談ください。

次の処置を試すことで、ご自身で Honda 販売店まで走行できる場合があります。

1. メインスイッチを○（Off） にする。
2. 再度メインスイッチを▌（On） にして、エンジンを始動する。

エンジンが始動できない場合

メインスイッチを○（Off） にして、ギアの噛みこみを外すためにお車を前後に少し動かしてください。再度メインスイッチを▌（On） にして、エンジンを始動します。

それでもエンジンが始動できない場合

ブレーキレバーを握るか、ブレーキペダルを踏み込みながらエンジンを始動します。

N から D への切り換えができた場合

ギアポジション表示に表示されたギアで走行できます。

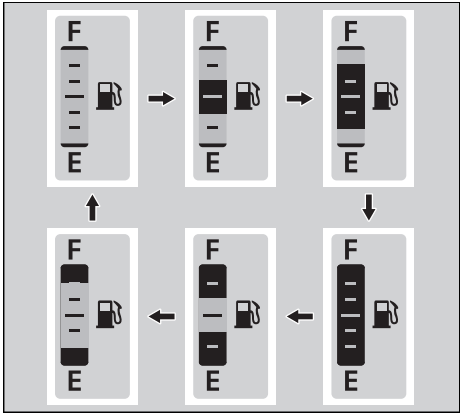
安全な速度で走行してください。

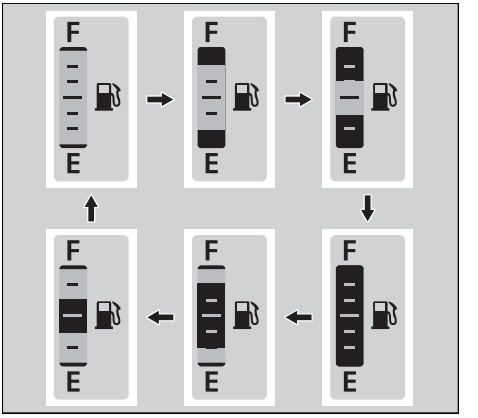
N から D への切り換えができなく、ギアポジション表示の“-” 表示が点滅している場合

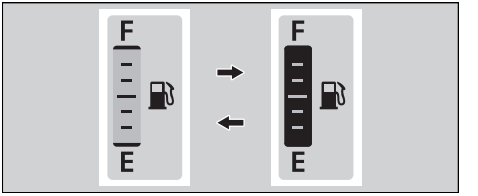
故障が考えられますので、エンジンを始動せず、直ちに Honda 販売店にご相談ください。

燃料計の故障表示

燃料計のマークが下図のように点灯、消灯をくりかえしたときは Honda 販売店にご相談ください。

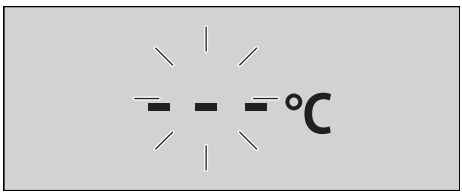






水温計の故障表示

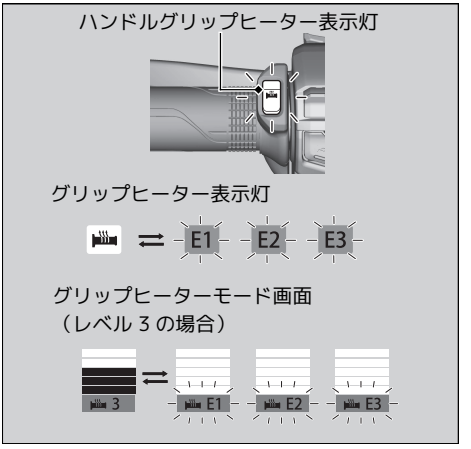
水温計が図のように点灯、消灯をくりかえしたときは Honda 販売店にご相談ください。



ハンドルグリップヒーターの故障表示

ハンドルグリップヒーター表示灯が点滅し、メーターのグリップヒーター表示灯やグリップヒーターモード画面で"E1"、"E2"、"E3" が点滅表示した場合は、ハンドルグリップヒーターの異状が考えられます。
点滅が消えない場合は、Honda 販売店にご相談ください。

また、ハンドルグリップヒーター表示灯やメーターのグリップヒーター表示灯が点灯しない場合は、Honda 販売店にご相談ください。



スマートフォンのペアリングトラブル

事象	原因、対処
スマートフォンをペアリングできない	お使いのスマートフォンによっては、車両に対応していない場合や操作可能な機能が制限されている場合があります。
	車両とスマートフォンの両方がペアリングモードになっていることを確認してください。➡P. 72
	再ペアリングする前に、周囲を調べて、ペアリングされている他のデバイスが存在しないことを確認してください。 近くに *Bluetooth*®機器が存在すると、電波干渉などによりペアリングに影響を与える場合があります。
	スマートフォンを接続するときは、ペアリングの準備ができている他の *Bluetooth*®デバイスが存在しないことを確認してください。 近くに *Bluetooth*®機器が存在すると、電波干渉などによりペアリングに影響を与える場合があります。
	スマートフォンの *Bluetooth*®設定から車両ペアリング情報が削除されていることを確認してください。 ご使用のスマートフォンによっては、ペアリング情報を削除しないと接続できない場合があります。

次ページに続く

事象	原因、対処
スマートフォンを接続できない	お使いのスマートフォンによっては、車両がスマートフォンに接続して専用アプリの使用を開始するまでに時間がかかる場合があります。
	エンジン始動時に一時的に接続が切断される場合がありますが、これは正常であり、故障ではありません。 エンジン始動後、スマートフォンは再接続されます。
	Bluetooth®ステータスアイコンが表示されることを確認します。 スマートフォンの取扱説明書を参照し、スマートフォンが接続可能な状態であることを確認してください。
	ご使用のスマートフォンによっては、自動接続されない場合があります。 接続については、スマートフォンの取扱説明書の指示に従ってください。
	複数のスマートフォンを同時に接続することはできません。

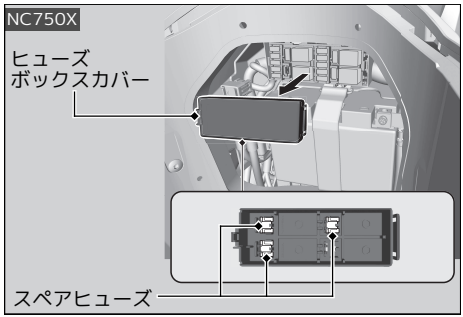
上記の点検を行っても問題が解決しない場合は、Honda 販売店にご相談ください。

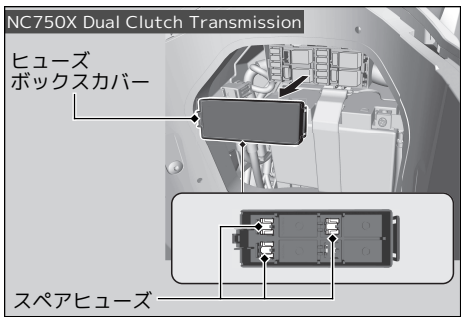
ヒューズの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。P. 109

ヒューズ切れ

ヒューズボックス内のヒューズ

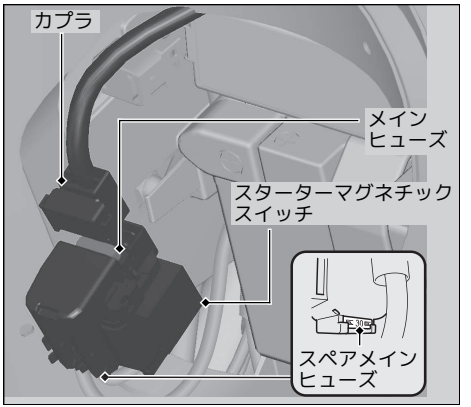
1. ラゲッジボックスを開ける。P. 97
2. メンテナンスリッドを取り外す。P. 118
3. ヒューズボックスカバーを取り外す。
4. ヒューズが切れている場合はヒューズプーラーを使って、同じ容量のスペアヒューズと交換する。
   - ▶ ヒューズプーラーは携帯工具の中に入っています。P. 98
   - ▶ スペアヒューズはヒューズボックスカバーの裏にあります。
5. ヒューズボックスカバーを取り付ける。
6. メンテナンスリッドを取り付ける。
7. ラゲッジボックスを閉じる。





次ページに続く

メインヒューズ



1. ラゲッジボックスを開ける。 ➡P. 97
2. メンテナンスリッドを取り外す。 ➡P. 118
3. バッテリーを取り外す。 ➡P. 117
4. スターターマグネチックスイッチのカプラを外す。
5. メインヒューズが切れている場合はヒューズプーラーを使って、同じ容量のスペアヒューズと交換する。
   ▶ スペアヒューズはスターターマグネチックスイッチの下にあります。
   ▶ ヒューズプーラーは携帯工具の中に入っています。 ➡P. 98
6. 外した部品を逆の手順で取り付ける。

アドバイス

ヒューズが切れた際は、早めに Honda 販売店で点検し、スペアのヒューズを補充してください。

インフォメーション

サービス診断記録装置について..... P. 152
キーの取り扱い..... P. 153
装備に関する補足情報 ..... P. 154
車のお手入れ ..... P. 158
保管のしかた ..... P. 161
廃棄するとき ..... P. 161
フレームおよびエンジンナンバー ..... P. 164
触媒装置について..... P. 165

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- 故障診断状態
- 運転状態

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。 なお、会話等の音声や映像は記録されません。

キーの取り扱い

メインスイッチのキー

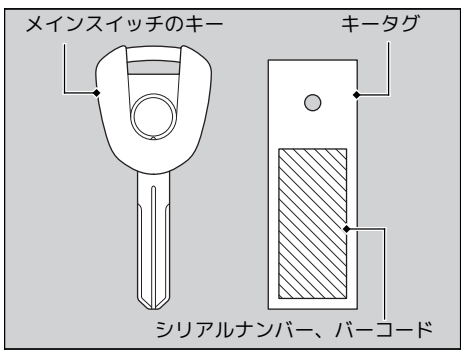
メインスイッチのキーには、キータグが付属します。キータグにはシリアルナンバーとバーコードがあります。

メインスイッチのキーには、HISS（イモビライザーシステム）の電子部品が内蔵されています。電子部品の破損またはデータ異常の発生を防ぐため、取り扱いの際には次のことをお守りください。

- キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えない
- 長時間、直射日光にさらしたり高温下で放置しない
- 削ったり、穴を開けない
- 強い磁気を帯びた場所に置かない

キー、キータグをすべて紛失した場合、イグニッションユニットの交換が必要になります。予備のキー、キータグは大切に保管してください。
予備のキーの作成については、専用のキーおよびHISS の再登録が必要になりますので、Honda 販売店にご相談ください。

キーに金属製のキーホルダーを使用するとメインスイッチ周辺に傷がつくおそれがあります。



装備に関する補足情報

メインスイッチ

エンジンをかけずにメインスイッチを|（On）の状態にしておくとバッテリーあがりの原因となります。
走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

エンジンストップスイッチ

このスイッチは、非常時に、すぐにエンジンを止めるために設けたものです。非常時以外は使用しないでください。走行中に操作すると、エンジン回転が不安定になり、走行に悪影響を与えます。
非常時にこのスイッチでエンジンを止めた場合は、メインスイッチを必ず○（Off）にしてください。|（On）のままにしておくと、バッテリーあがりの原因となります。

オドメーター

オドメーターは、999,999 km を超えると 999,999 km でロックします。

トリップメーター

トリップメーター A／B は、9,999.9 km を超えると 0.0 km に戻ります。

アシストスリッパークラッチシステム

NC750X

アシストスリッパークラッチは、走行時のシフトダウンによる急激なエンジンブレーキを緩和することで、リヤタイヤのロックを防ぎ、クラッチ操作を容易にするシステムです。
エンジンオイルは MA 分類のものを使用してください。MA 分類以外のエンジンオイルを使用すると、アシストスリッパークラッチシステムの故障の原因になります。

タコメーター

タコメーターの色は直射日光や周囲の明るさによって識別しづらい場合があります。

HISS

HISS は、登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにしたイモビライザー（盗難防止）システムです。
エンジンストップスイッチが（Run）の状態でメインスイッチを（On）にすると、HISS 表示灯が点灯し、数秒後に消灯することでエンジンの始動が可能であることを示します。消灯しない場合は始動できません。
HISS 表示灯が消灯しないとき P. 137

HISS 表示灯は、メインスイッチを（Off）にしたあと 2 秒間隔の点滅を開始し、24 時間経過すると消灯します。

メーターの設定機能を使用して、HISS 表示灯の点滅／非点滅の切り換えを行うことができます。
メーターの設定 P. 43

書類入れ

取扱説明書、登録書類、保険証、メンテナンスノート、ETC 車載器取扱説明書などは書類入れに入れ、メンテナンスリッドの上にバンドで収納してください。

イグニッションカットオフシステム

この車は、転倒したとき、自動的にエンジンを停止するシステムが装備されています。エンジンを再始動するときは、システムの作動を解除するためにメインスイッチを一度（Off）にしてください。

スロットルバイワイヤシステム

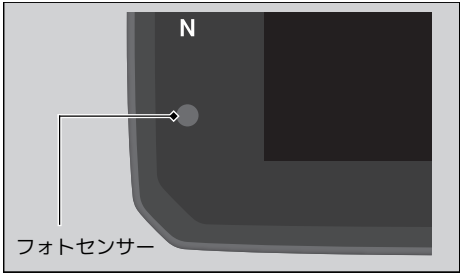
この車は、スロットルバイワイヤシステムが装備されています。
磁化されているものや磁気の干渉を受けやすいものは、右側のハンドルスイッチ周辺に近づけないでください。

次ページに続く

ディスプレイの自動調光

設定モードの「明るさ」と「背景」調整で「自動」を選択した場合、周辺の明るさをフォトセンサーで感知し、ディスプレイの明るさと背景色を自動で調節します。 P. 44 P. 45

フォトセンサーを傷つけたり、覆ったりすると自動調光が正常に作動しない場合があります。



ヘッドライト、ストップ/テールランプ、フロントウィンカー、リアウィンカー、ポジションランプ、ライセンスプレートライト

LED 使用のライトは一体式です。

もし、1 個でも点灯しなくなった場合は、Honda 販売店にご相談ください。

Honda RoadSync



023-230007

Product name: Bluetooth unit
Model name: SAB01
Manufacturer: Visteon Corporation
Classification of Specified Radio Equipment : Article 2,Paragraph 1,Item 19,2.4GHz band low-power data communication system
Type of emissions Frequency and RF Output Power : F1D 2402 ~2480MHz(2MHz spacing 40 channels) 0.00164W
Country Certificate Type : MIC
Certificate granted in accordance with the provisions of Article 38-24 Paragraph 1 of Radio Act.

車のお手入れ

お車を長持ちさせるため、清掃などのお手入れは大切です。普段見逃しがちな異状の発見にもつながります。また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。さらに、泥やほこりが付着するとフロントサスペンションの摩耗が早くなり、オイル漏れを引き起こすことがあります。海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行したあと、泥やほこりの多い場所を走行したあとは、必ず洗車してください。

洗車

エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで洗車しないでください。

1. 全体を水洗いして、汚れを取り除く。
2. 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、スポンジか柔らかいタオルを使って洗う。
   ▶ 傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
3. 十分な水で洗剤を洗い流しやわらかい布で拭きあげる。
4. 車体を乾燥させた後、ドライブチェーンと可動部分に注油する。
5. 車体の腐食を防ぐためワックスがけを行う。

洗車にあたっての注意

洗車するときは、次のことをお守りください。

- 高圧洗車機の使用はさける
  ▶ 車体に高い水圧がかかる洗車を行うと、可動部や電装部品などの作動不良や故障の原因となることがあります。
  ▶ ヘッドライトレンズやフェアリング、その他のプラスチック部品を洗うときは、傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
- マフラーに水を入れない
  ▶ 始動不良やサビの発生などの原因になります。
- エアインテークやエアクリーナー周辺に水を強くかけない
  ▶ エアクリーナー内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。

● ブレーキを濡れたままにしない
▶ 水によってブレーキの効き具合が悪くなることがあります。洗車後は十分に乾かし、慎重なブレーキ操作を心がけてください。
● ワックス、ケミカル類や油脂類を扱うとき
▶ ブレーキやタイヤにオイル等の油脂類、ワックスやケミカル類が付着しないよう注意してください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になる場合があります。
▶ ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディーの目立たないところでくもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。種類によっては塗膜が薄くなったり色むらが生じるものがあります。
▶ つや消し塗装が使われている場合は、塗装面にワックスやケミカル類を使用すると、つや消し感が無くなったり、色むらが生じるおそれがありますので、使用しないでください。

● ヘッドライトがくもったとき
▶ ヘッドライトは雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的にくもることがあります。また、ヘッドライト内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは、雨天時などに窓ガラスがくもるのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ヘッドライトの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。
但し、ヘッドライト内に水がたまっている場合や大粒の水滴がついている場合は Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

アルミ部品

アルミ部品は土や泥、あるいは塩分によって腐食します。傷をつけないよう、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 硬いブラシやスチールウールを使用しない
- アルミホイールはすり当てをさけ、縁石などに乗り上げる際は変形に注意する

樹脂部品

傷やひび割れ等を防ぐため、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布やスポンジで汚れを落とす
- 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流す
- メーター、スクリーン、フェアリング、ヘッドライトレンズなどの樹脂部品にガソリン、ブレーキ液、クリーナーなどがかからないようにする

エキゾーストパイプ、マフラー

ステンレス鋼を使用していますので、油脂などの汚れが付着したままエンジンを始動すると、焼けムラが起こります。

汚れが付着した場合は、ステンレス用台所洗剤を使って、やわらかい布かスポンジで洗い落としてください。洗浄後は、十分に水洗いして乾いた布で水分を拭き取ってください。

焼けムラをとる場合は、市販の細目のコンパウンドで磨いたあと、汚れが付着した場合と同じ要領で洗い落としてください。

エキゾーストパイプ、マフラーが塗装されている場合は、ステンレス用台所洗剤や市販のコンパウンドを使用しないでください。塗装面の清掃には中性洗剤を使用してください。もし、塗装処理されているかわからない場合は、Honda 販売店にご相談ください。

アドバイス

ステンレス鋼を使用している場合でも、塗装をしているものもあります。

目立たないところでくもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。

保管のしかた

屋外に保管する場合はボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。
また、長期間ご使用にならない場合は、次のことをお守りください。

- サビを防ぐために、保管前にワックスがけを行う（つや消し塗装面を除く）
- 雨上がりにはボディーカバーを外し、車体を乾燥させる
- バッテリーは自己放電と電気漏れを少なくするため、車から取り外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存する
  ▶ もしバッテリーを車に積んだままにする場合は、⊖側ターミナルを外してください。

長期保管後にお車を乗る際は、保管期間を考慮した上で、各部の点検を実施してください。

廃棄するとき

地球環境を守るため、お車や交換した部品、なかでも使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイルの廃油等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、Honda 販売店にご相談ください。
また、将来お車の廃棄を希望するときはお近くの廃棄二輪車取扱店へご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で広域廃棄物処理指定店として登録されている廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。
店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が掲示されています。





次ページに続く

二輪車リサイクルマーク、リサイクル料金

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただきません。

ただし、廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークは、ラゲッジボックスを開けると確認できます。➔P. 97



お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要です。マークは剥がさないでください。マークの再発行や販売の取り扱いはありません。二輪車リサイクルシステムの概要、ご利用方法等は、Hondaウェブサイト「廃棄段階のリサイクル　二輪車リサイクル自主取り組み」にてご確認いただけます。
http://www.honda.co.jp/motor-recycle/

ダンパーユニット

リアサスペンションのダンパーユニットには、高圧窒素ガスが封入されています。廃棄する場合は、Honda 販売店にご相談ください。

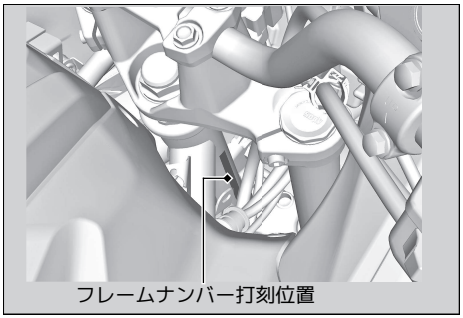
⚠ 警告

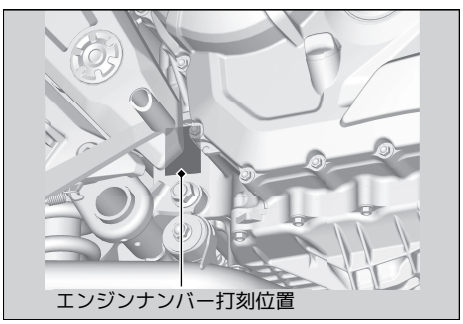
高圧窒素ガスが封入されたダンパーユニットを火中に入れたり、穴を開けたり、分解したりすると、爆発や破裂するおそれがあり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

ダンパーユニットは、
- 火中に入れないでください。
- 穴を開けないでください。
- 分解しないでください。

フレームおよびエンジンナンバー

フレームおよびエンジンナンバーは、部品を注文するときや、車の登録に関する手続きに必要です。また、フレームナンバーは、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手がかりにもなります。ナンバープレートの登録番号とともに別紙に記録し、車と別に保管することを推奨します。





触媒装置について

この車は平成 32 年排出ガス規制適合車です。 この車には触媒装置が搭載され、排出ガスに含まれる一酸化炭素（CO）、炭化水素（HC）、窒素酸化物（NOx）の 3 つの有害物質の排出量を低減します。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。触媒装置は高温になるので、枯れ草や紙など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

走行上の注意

次のような取り扱いはしないでください。触媒温度が異常に高くなり、損傷するおそれがあります。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチを操作すること
- 空ぶかし直後にエンジンを止めること

触媒装置の損傷を防ぐために

触媒装置が損傷すると、排出ガス濃度を劣化させるだけではなく、車本来の性能を発揮できなくなります。損傷を防ぐために、次のことをお守りください。

- 燃料は、必ず無鉛ガソリンを使用する
- 定められた点検整備を実施する
- エンジン不調を感じたときは、直ちに Honda 販売店で点検を受ける

■ 主要諸元

型式	8BL-RH23
全長	2,210 mm
全幅	845 mm
全高	1,330 mm
ホイールベース	**NC750X** 1,525 mm **NC750X Dual Clutch Transmission** 1,530 mm
最低地上高	140 mm
キャスター	27° 0′
トレール長	110 mm
車両重量	**NC750X** 216 kg **NC750X Dual Clutch Transmission** 226 kg
乗車定員	2 名
最小回転半径	3.0 m
排気量	745 cm^3
ボア×ストローク	77.0 x 80.0 mm
圧縮比	10.7:1
燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	14 ℓ
バッテリー容量	YTZ12S 12 V-11 Ah (10 HR)

変速比		1 速	2.666
		2 速	1.904
		3 速	1.454
		4 速	1.178
		5 速	0.967
		6 速	0.815
減速比	**NC750X**		
		1 次	1.731
		2 次	2.687
	NC750X Dual Clutch Transmission		
		1 次	1.921
		2 次	2.411

■ サービスデータ

クラッチレバーの遊び	**NC750X**	10 - 20 mm	
タイヤサイズ	前輪	120/70ZR17M/C(58W)	
	後輪	160/60ZR17M/C(69W)	
タイヤタイプ		ラジアル、チューブレス	
指定タイヤ	前輪	DUNLOP	D609F
		METZELER	TOURANCE NEXT N
	後輪	DUNLOP	D609
		METZELER	TOURANCE NEXT
タイヤ空気圧	前輪	250 kPa (2.50 kgf/cm²)	
	後輪	290 kPa (2.90 kgf/cm²)	
最小残溝量	前輪	1.5 mm	
	後輪	2.0 mm	
点火プラグ	標準	IFR6G-11K（NGK）	
プラグギャップ	（調整不可）	1.00 - 1.10 mm	
アイドル回転数		1,200 ± 100 rpm	
推奨エンジンオイル		Honda 純正 ウルトラ G1	
		または下記相当品	
		JASO T 903 規格： MA	
		SAE 規格： 10W-30	
		API 分類： SJ 級以上	

エンジンオイル容量	**NC750X**	
	オイル交換時	3.4 ℓ
	オイル・フィルター交換時	3.6 ℓ
	全容量	4.0 ℓ
	NC750X Dual Clutch Transmission	
	オイル交換時	3.1 ℓ
	オイル・フィルター（エンジン）交換時	3.4 ℓ
	オイル・フィルター（エンジンとクラッチ）交換時	3.4 ℓ
	全容量	4.0 ℓ
エンジンオイル交換時期	初回： 1,000 km または 1 ヶ月	
	以後： 10,000 km または 1 年ごと	
指定ブレーキ液	Honda 純正ブレーキフルード DOT4	
冷却水容量	全容量 1.69 ℓ	
指定ラジエーター液	Honda 純正ウルトララジエーター液	
エアクリーナーエレメント交換時期	交換：40,000 km ごと	
推奨ドライブチェーンオイル	Honda 純正チェーンオイルまたは相当品	
ドライブチェーンの緩み（たるみ）	25 - 35 mm	

■ バルブ（電球）

ヘッドライト	LED
ポジションランプ	LED
ストップ/テールランプ	LED
フロントウィンカー・ポジションランプ	LED
リアウィンカー	LED
ライセンスプレートライト	LED

■ ヒューズ

メインヒューズ	30 A
その他のヒューズ	30 A、15 A、10 A

索引

A
ABS 警告灯 60
ABS（アンチロックブレーキシステム） 5, 141
AT モード 88, 90, 91
AT／MT スイッチ 88

D
D 値（DCT モード） 78

E
EB 値（エンジンブレーキレベル） 78
ETC アンテナ 103
ETC 車載器 103
ETC 表示灯 103

H
HISS 表示灯 61, 155
Honda RoadSync 157

M
MT モード 88, 90, 92

N
N-D/M スイッチ 68, 88, 91

P
P 値（エンジン出力レベル） 78
PGM-FI 警告灯 60
PGM-FI 警告灯 140

T
T 値（トルクコントロールレベル） 78

ア
アクセサリー 10
アシストスリッパークラッチシステム 154
安全運転のために 3
安全上守っていただきたいこと 3
安全なライディング 2

イ
イグニッションカットオフシステム 155
インフォメーション 151

ウ
運転するときの注意 5

エ
エアクリーナー 111
エンジン
EB 値（エンジンブレーキレベル） 78
P 値（エンジン出力レベル） 78
エンジンオイル 110, 121
エンジン始動 82
エンジンストップスイッチ 154
エンジンナンバー 164
エンジンブレーキ 6
エンジンがかからないとき 137

オ
オーバーヒート 138
お手入れ 158
オドメーター 24, 154

カ
改造 10
各部の名称 12
ガソリン 8, 95
カラーラベル 107

キ
ギアチェンジ 86

ク
クラッチ
クラッチ 129
クラッチレバー 129
クラッチレバーの遊び 129
クリップ 116

ケ
警告灯
ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯 60, 141
PGM-FI 警告灯 60, 140
トルクコントロール警告灯 61, 142
トルクコントロール OFF 警告灯 61
油圧警告灯 139

携帯工具 98

コ
交換部品 107
こんなときは 136

サ
サイドスタンド 6
サスペンション 135

シ
シフトアップスイッチ（+） 67, 92
シフトダウン 86
シフトダウンスイッチ（−） 67, 92
瞬間燃費 25
情報表示エリア 23
触媒装置 165
書類入れ 98, 155

ス
スイッチ
AT／MT スイッチ 88
MODE スイッチ 66, 67
N-D/M スイッチ 88, 91
ウィンカー（方向指示器）スイッチ 66, 67
エンジンストップスイッチ 63, 68, 154
シフトアップスイッチ（+） 92
シフトダウンスイッチ（−） 92
スタータースイッチ 63, 68
セレクトスイッチ 66, 67
ハザードスイッチ 62, 68
パッシングライトスイッチ 66, 67
ハンドルグリップヒータースイッチ 100
左ハンドルスイッチ 66
ヘッドライト（前照灯）上下切り換えスイッチ 66, 67
ホーンスイッチ 66, 67
スペック 166
スロットル 133

セ
積載について 11
洗車 158
選択エリア 28

ソ
その他装備の使いかた 97

タ
タイヤ 113
タコメーター 155

チ
駐車 6

テ
ディスプレイの自動調光 156
デュアルクラッチトランスミッション 88
点検
定期点検 106
日常点検 105
電装部品のトラブル 149

ト
ドライブチェーン 112, 128
トリップメーター 25, 154
トルクコントロール OFF 警告灯 61
トルクコントロール警告灯 61

ナ
慣らし運転 5

ニ
ニュートラル表示灯 60

ネ
燃料
使用燃料 96
燃料計の故障表示 144
燃料タンク容量 96
燃料補給 95
燃料消費量 26

ハ
パーキングブレーキ 75, 127
パーキングブレーキレバー 127
廃棄 161
ハイビームパイロットランプ（前照灯上向き表示灯） 19

バッテリー 108, 117
ハンドルグリップヒーター
故障表示 146
ハンドルロック 69

ヒ
左ハンドルスイッチ 66
ヒューズ 109, 149
表示灯
ETC 表示灯 103
ETC 表示灯 19
HISS 表示灯 61, 155
ニュートラル表示灯 60
方向指示器表示灯 60

フ
フォトセンサー 156
服装 4
ブリーザードレーン 112, 132
ブレーキ
使いかた 5
パーキング 75, 127
ブレーキ液 111, 125
ブレーキパッド 126
ブレーキレバー 134
フレームナンバー 164

ヘ
平均車速 27
平均燃費 26
ヘルメットホルダー 99
ヘルメットホルダー ワイヤー 99, 99

ホ
方向指示器表示灯 60
ホーンスイッチ 66, 67
保管 161
ポップアップ情報表示
警告情報 59
メンテナンスポップアップ情報表示 58
ライディングモード 59

メ
メインスイッチ 63, 65, 154

メインスイッチのキー 153
メーター 16
メンテナンス 104
メンテナンスリッド 118

ユ
油圧警告灯 139

ラ
ライディングモードの選択
D 値（DCT モード） 78
EB 値（エンジンブレーキレベル） 78
P 値（エンジン出力レベル） 78
T 値（トルクコントロールレベル） 78
ラゲッジボックス 97

リ
リアシート 95
リサイクルマーク 162

レ
冷却水 111, 123

ロ
ロアーフェアリング 119

お問い合わせ

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受けいたします。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　**0120-086819**（オーハローバイク）

受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00

〒351-0188　埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日

②車種名、タイプ名、走行距離

③ご購入年月日

④販売店名

Online Owner's Manual
https://www.hondamotopub.com/HMJ

HONDA

NC750X
NC750X Dual Clutch Transmission

30MKW620
00X30-MKW-6200

00X30-MKW-6200

Ⓐ Ⓑ 300.2024.12.M
© 2024 本田技研工業株式会社